正三年七月一日發行大正三年六月二十八日印刷納本
治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

第拾壹巻
第七號

要目

女子青年界第十一巻第七號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XI July, 1914 Number 7.

東京公私立十二學校長の贊助
家元始め斯道諸大家の指導

花道通信教授

會員募集

▲生花は我國粹の一なり
▲生花は現代婦人必須の藝術なり
▲生花は家庭の趣味を向上せしむ

●教授方法は極めて斬新初心の人にも容易に習得せしむ
●居ながら斯道大家に就て學ぶと同様の効果あり
●全科修了者には教員免狀を出すの特典あり
●會費一ヶ月　金參拾錢
●會費三ヶ月分　以上前納ノ事
- 三ヶ月分金八拾五錢
- 半年分金壹圓六拾五錢
- 一年分金參圓貳拾五錢

▲先づ試みに内容見本を見よ
規則及び内容見本申込次第進呈

入會申込所　東京市神田區表神保町十番地　**龍生會**　振替口座東京二八三〇二番

JAPANESE TOWELLING

WHOLESALE AND RETAIL

SAKAIYA.

No' 5 Owaricho Shinchi Kyobashi-Ku
GINZA. Tokyo, Japan

珍形 手拭地

御誂名入手拭
歐米向手拭地、ナプキン
風呂敷
テーブル掛其他

御注文の節は市内に限り遠近不論御一報次第雛形持參店員御伺差出申候

東京市京橋區尾張町新地五番地

手拭輸出商 **堺屋清助**

電話新橋一五六四番

東京市神田 **堺屋**第一第二**染工場**

院長診察（月、水、木、金、午前
入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 **醫學士 高田畊安**

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
從停車場半里

南湖院

電話 チガサキ 二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

女子青年界　第十一巻第七號（大正三年七月一日發行）

會説

偉大の道

河井道子

昨今、東京横濱の新聞は、よく發疹チブス、ペスト患者を報道して居ります。而して東京の如きは世界中の、ペスト指定地の中に數へられたとさへ申しまして、なか〳〵物騒で油斷がなりません。勿論東京は二百萬以上の人口ですから、其の中に指折る位の惡疫患者が出たとて、數に於ては別に驚くべきでは御座いませんでも、此の病毒の彌漫は恐怖すべく其の結果は戰慄の外はありませんからして、人々は大騷をして、大消毒とか、大掃除とかをして居る次第です。扨斯る傳染的惡病を驅逐せんが爲に、當局者は勿論ですが、直接に其危險を冒して救濟をするものは、醫師や看護婦で御座います。

先頃東京帝國大學講堂にて、此度のペストやチブスの爲に、業務上生命を賭して、晝夜働き終に感染して、倒れた三勇士の追悼會がありました。其の席上にて、某教授が一同に向ひ「一體世間では醫者を兵士に譬へるが、彼等は兵士以上の危險を冒して居る、彼等には毎日が戰場であるから、何時でも命を捨てる覺悟をして居る、又兵士の如く、命令に由りて動かず、己より進むで危險地に入るのである」云

々と述べられたとかです。如斯立派な最後を遂げし三學士は、眞個の犧牲の實に壯嚴で美しく、欣慕すべきものなる事を、夥多の青年に談り、彼等の胸を跳らした事と思ひます。

玆に又森田八十郎氏の献身的生涯の一端を申上げて見たい。同氏は一生を貧民患者の爲めに與へて、終に六月二日午前三時に逝去されました。氏の令弟外村義郎君は、貧民間に靈的救濟をなし、森田氏は彼等の肉體を救濟して、明治三十九年より最後の日の夜十二時迄、甘じて凡ての苦艱を受け、同情と愛と忠實を以て、薄倖者を助け、其の數が約八萬人とは驚嘆の外はありません。世には一時的義俠の救濟や慈善をする者は可なりありましてもかく哀むべき者の友となりて、十年一日の如く益々忠實に、益々親切に働く偉人が幾人ありましようか。森田氏は未だ春秋に富まれた方でありましたが、激しき勤勞が原因で、死去されましたのです。遊び過ぎて死ぬ人や肉慾に耽つて死ぬ人は、多すぎる程ありますが、善事の爲に働き過ぎて倒れる人は、晨の明星よりも尠いものであります。氏は地上に於ける終りまで忠信なりし勇士。これ以上には働かるゝ事は不可能でありましたから、神が永久の休憩に招き給ひましたのであります。氏の赤誠は幾多の人心を感激して生甲斐ある生涯、死甲斐ある犧牲を欣慕せしめて自己を反省せしめたか知れません。如何にも犧牲の生涯は美しいもの、力あるもの、生命あるもの、勝利あるものでは御座いませんか。基督が『汝等のうち大ならんと思ふものは汝等の僕となるべし、一粒の麥もし地に落ちて死ずば唯一にて在らんも死ば多くの果を結ぶべし』と敎へられしは實に大々眞理で、其が人を偉大ならしむる唯一の道であります。私共には今直ぐには生命を投げる如き壯烈なる犧牲は要求されて居りませんが、又相當に偉大になれよとて、日常生活にて其の道が踏める樣にしてあります。只注意すべきは、私共は此貴重なる犧牲なる言葉を濫用する事であります。僅ばかり肉慾を制へて食たい

ものを食べず、見たいものを見なかつた、欲いものを買はなかつた、それが献身犧牲と思ふてはなりません。これは肉慾を制し動物性を制する迄の事であります。とは申しましても、是等が眞實の偉大の道の道しるべでありますから決して〳〵無視すべきではありません。己が慾に打勝つは、戰場の敵に勝つよりも六ヶ敷いものと誰しも申します。

扨て愈々七月が參りました。此月は學生には夏休暇を持來らして歸省せば、あれもせん、これもせんと樂しき想像が繁く往來いたす期節で御座います。熱天鑠地の都會を去り、茂樹清水の仙境に歸省さるゝ方々は夏ほど嬉しき樂しきものはありますまい。心は廻る故郷の山、父母や待ち給ふ、弟妹は門に佇まんと、一日千秋の思ひして居るゝ姉妹方の爲に、私共は御嬉び申上げて、其の想像のより以上に樂しき夏を送られる樣に祈ります。しかし、夏には郷里へ歸て唯遊び唯食ひ一ヶ年の重荷を下すのみでは、敎育された甲斐がありません。『大ならんと欲するものは僕となれよ』との命令を少しも忘れず、何か父母のため、兄弟のために、盡すことがなくてはなりません。私は一人の女學生が夏休みに、田舍の自宅に歸り、早々袴を脫ぎ衣服を更へて、水田に出で農夫の父母と草取をしたことを知て居ります。今一人は炭屋の娘にて、夏歸省して炭部屋の掃除を甲斐々々しくして居るのを見ました。しかも、彼等の兩親は久々で歸つたのだからとて、決して荒仕事はせぬでよしと申すのを、自分達より進んで願ふて致す其の心が實に偉大ではありませんか。田舍に歸省さるゝ姉妹方ならば、隣近所の人々が『何々さんが御かへりだ豪い御人になられた。』との評も澤山起りませう。かゝる場合に、何が豪いものか、即ち己が學び得し事を誇るにあらず、人々を使ひ廻すに非らず。謙遜で、親切で忠實に何事にても働くと云ふ豪さを知らせて下さい。もし出來れば夏の間丈でも村の小供の爲に日曜學校を開くとか、鼻垂しや、腕白小僧を世話してやるとか、自分の弟妹に親切に物を敎へ

てやるとか、又信者ならば、傳道の機會を失はざる樣に努力するとか、此夏休暇にはそれ〴〵偉大になれるよき練習が出來ます。乍然、又一方には夏休暇が却て苦痛の姉妹も有りましよう。歸るに家なく、迎へ給ふ慈母もなく、或は父母兄弟なりとても、無きに均しき境遇や、又は一分の休息さへ出來ざる夏を迎ふる人と種々雜多で御座いましよう。是等の人々は人情として幸福なる姉妹方を羨望されませう。然し、青年時代にかゝる苦痛の來りますことは、放恣遊惰の惡習慣より救はれ、同情と忍耐の美德を養ひます道で御座います。其に夏冬の間斷なく働くのが普通の事であり、我等の救主の御一生を偲びましよう。主は『空の鳥は巢あり然れども人の子は枕する處なし』と申されし程に多忙で、夏休も、冬休もなきのみか、晝夜人類の爲に働き、己が身を微塵にして、罪の贖を死をもつてなされたが故に、即ち己を捨て犧牲を極度までに致されしが故に、エスキリスト程の偉大な方はない次第で御座います。此等の眞意をよく解して、只瞑想したり、悲觀したり、羨望したりのみせず、勇氣をもつて『我が惠汝に足れり』との御聲を聞き、感謝しつゝ偉大の道に此の夏は踏出したいもので御座います。

米國加州沿岸の同胞

米國羅府日本人人道會幹事　楠本六一

私は米國に十九年間居りまして此度で四度日本に參りました。日本に參りましたと云へばおかしくきこえますが、私は實は最初から米國に永住する積りでありましたから、自ら米國人を氣取つて居るので

あります。
扨米國の太平洋沿岸には九萬五千の私共の同胞が居ります。其の内婦人が一萬二千九百七十六人居ります。北シャートル市から南ロサンゼルス市間に居る日本人の子供の數が一萬一千二百〇八人であります。これは皆大正二年十二月に調査された正確なる數であります。この一萬三千の婦人が米國に於て何をして居るか、如何なる狀態に居るかと云ふ事を研究するは興味もあり、大切でもあります。

實は沿岸に居る男子の狀態を述べたいと思ひますが之は他日に讓つて、今日は唯婦人と子供との事につきてお話し致さうと思ひます。其一萬三千の姉妹が何時來る樣になつたかと云ふに之れは極最近の事であります。明治の時代頃には極僅かの婦人のみであつて一萬幾千と增したのはこの三四年前の事で、皆家庭をもつて居るものでありますが、これらの新らしき家庭は薄弱にて、且動ともすれば打壞れようとするのであります。一體男子が五年十年と米國に居りまして汗水を流して働き儲けて多少の資產が出來た所で家庭を持つて見ようかと思つて、種々工夫しても僅かの金では自分の理想の日本女子を該地で貰ふ事は困難であるので、是が即ち目下流行して居る、寫眞結婚と云ふものが生じた譯であります。この結婚は寫眞にて見合をなし、兩方の話しを聞き、互に承認して、男子の方より旅費を送つて其婦人を呼び寄せるのであります。昨年一年間に渡米した婦人が二千四百二十一人でありました。（これは十月までの調査）結婚の爲に船の長い旅行を終へて即ち加州へは十六日若しくは十七日、短くはキャナダ。シャトルに着くのが、十三日か十四日と云ふ長旅行でありますが、港へ着くと其の時其の夫になるといふものが船まで迎へに來るのであります。すると、婦人はもつて來た寫眞と實物とを比べて見るのでありますが、此處で多くの滑稽が演ぜられるのです。それは皆樣の想像に出來ない事であります。又移民官の手によりて、夫婦がはじめて逢ふのでありますが

中には喜んで涙をながすものもありますが、又厭ふて結婚を拒んで日本へ歸る婦人もあります。しかし兎に角、少々氣に入らぬ處があつても長い間旅行もして來たのであるから、夫の側に行かうと云ふ婦人もあります。私は、しばらく、移民官の通譯でしたから、よく此樣な事は知つて居ります。此寫眞結婚は大變危險なのですが、兩方とも最初は熱にうかされて居るので氣にかけないのであります。諸君にもこれにつきて御注意を御願ひ致し度いのであります私は米國全體の事は申上ません。唯ロサンゼルスの市内の事のみを申上げます。私がこの市の人道會に參りましてから六年になりますが、この間に六百幾つと云ふ事件を取り扱ひました。此ロ市は人口四十萬で今は沿岸第一の大都會であります。したがつて同胞の數も第一であります。シヤトルには三四千桑港には六千位の同胞が居りますが、このロ市には八千九百の同胞が居りまして、其の中一千三百三十五人は婦人であります。多くは家庭を有して居りません、立派な家庭を有するものは極稀であります、上流社會と云へば語弊がありますが、十分金を有し自己所有の一家屋を持て米國人と同じ生活をなして居るものは僅かであります。即ち米國では自分の住む家庭と店とは全然別でありますから、立派な家を借り立派な家具を置き、米人と同じき生活狀態にあるものをさして家庭を有する人と云ふのであります。又別に家を有せず店の内に住むで居る人もあります大部分は家も店も有せずルーミング(部屋住居)と云つて一軒の内の一室を借りて居るのであります。これは勞働者であつては結婚してもやはり同じであります。即ち一人の家主は十間あれば十人に貸すのでありまして、こゝには夫婦者のみならず、又獨身の男子も多く居るのであります。これも夫婦者は僅かで、獨身の男子が大勢でありますので、多くの難義な原因がこゝから起るのであります。それから、この立派な家庭を有する人は比較的善き仕事をして居ります。其の婦人の仕事は何かと云へば子供と夫の

世話をする他に社會のいろ〳〵の事業をして居ります。即ち女子青年會、基督教婦人矯風會等があり。又其の下には各教會に婦人會がありて、これ等の婦人がひまをさいて少數ではあるが盡力をして居ります。青年會がロ市に生れてから二年位ですが、會員は百名餘であります。今日の新幹事のやつて居る仕事は第一英語の組で、これが三ヶ所あります其の他料理の組、裁縫の組、訪問等があります。この訪問部が一番大切なのであります。訪問部は幹部の内の會長か副長が二人づゝ新らしく渡米した姉妹の家を訪問するのであります。日本より來る女は皆よく米國の模樣をしらべて來るのでありませうが、やはり赤毛布をやるのであります。それで今度誰々が日本から妻をよんだと新聞に出すから、さうすると、青年會は其を訪問して教會にみちびき、又婦人の心得べき事を教へ、又いろ〳〵の組に導くのであります又婦人が一家をなしてから種々の内訌が生ずるのでありまして、これを奔走して世話をするのが私の關係して居る人道會の仕事であります。私は今其の二三件を擧げてお話して女子青年會が立つてこの幾千人と云ふ米國に渡る人々の爲に何かをして貰ひ度いのであります。

加州の一番むこうの端のアリゾナの境に一つの村がありまして、其處には日本人の勞働者が澤山居りますが、其の中の一人が妻を娶つた處が、其夫婦間がおもしろからず、遂に家庭がやぶれたのみならずその妻が夫に六百弗をやつて分れたと云ふ事が新聞に出ました。これは日本に居る方々には想像はつきますまい、日本では別れる時に男子より出す人はありますが、妻の方から出す人はないのでありますから。併し米國では、男子が弱き婦人より金をとれば重罪にとはれるのであるから、これを聞きました時に、私共の會は直に一人の婦人の傳道師に電報にて其の事の眞否を問合せた處が、事實との返事が參りましたので、直に其の婦人をロ市に連て來る樣にと又打電しました處が直にその婦人をつれて參りまし

たので、當會の婦人ホームに收容して取り調べをいたしました。其の婦人の言葉によれば日本に於て開いた夫よりの言葉は、土地を幾エーカーか有し、金も有し、店も有するとの事であつたので、それを信じて來た。處が、來て聞いて見ると全く僞で、家はあるが球屋をして居るのであります。又日が經つにつれて夫の性質も分り、どうも快く思わぬ故、自分のちか〳〵に居る一人の男子に相談をした。そして一生此夫とは共に居る事は出來ぬから別れる事は出來ぬかと相談しました處が、その男子は大變親切に盡力をしてくれました。この婦人が煩悶して居る處であつたので、遂にこの男子の口先丈の親切に動かされたのであります。失禮な事ですが、日本の婦人は意志がよわい。西洋婦人の方が大變に强いのであります。日本では這麼樣な事はないのでしようが彼地に行けば遠國でもあるので、つい弱くなるのでありませう。處で順序として其の間におかしき事が起つた。それ故餘りよくない夫は怒つて難題をもち出した。それに仲裁が入つたりしましたが、其の仲裁人がキリスト信者でもなく、又熱心な佛教信者でもないので、婦人の賣買をはじめたのであります。そして、その六百弗を夫に拂つたのであります。それから、人道會では、その夫を召喚して調べて見ると、その夫は、妻が不德をなせる故別れた。それに彼女を呼ぶまでには六百弗以上を費して居るからそれを償還させたのであると申しました。米國では前にも申しました樣に、男子が婦人から金を取れば重罪にとはれるのでありますから、仲に立つた仲裁人も呼び寄て、その金を取戾し、婦人は一年間婦人ホームに置いて、家庭を復舊しなければ夫にかへす事は出來ないと云つて置きましたが、只今では再び家庭を持ち其の事のあつてから夫婦とも美普教會の信者となり喜んで居ります。

もう一つは山口縣の人で、寫眞をもつて結婚をして夫は移民官の前で妻を迎へる處でありました。然るに妻はいやがりて歸ると云つたのを親切な一人の

通譯が仲裁に入りましたので、婦人はいや〳〵ながら、汽車にのつてロ市に參りました。しかし、やはり面白からず思つて居たが、切角來たから辛抱して見ようと、心を取りなほしたので、夫も大變によろこび、二人で野に百姓をしに行つた即ち苺を取りに行つたのである。處が、なか〳〵骨の折れる仕事である上に、この婦人は、唯だ、女學校を卒業して後家庭で遊んで居たものであるので、その仕事にたへず、四五日の後にいやになり、又同じく他の日本の男子にその事をはなして相談をした處が、其の男子は大變に同情して親切に世話をしてくれたので、終にその人にひかされて、夫の目をぬすみても、その男子と話をしたので良人の知る處となり、此處は居るべき處でないと思ひ、その良人は自動車を借りて田舍の方へ行かんとしたが、婦人は行かないと云ひ其處にて一場の修羅場が演ぜられました。當會はこれを聞き、直ぐ其の婦人を婦人ホームにつれて來て今もホームで働らいて居りますが、其の良人は大變にわるい人で、婦人がさういふのも無理もない事であります。其の後この男子は幾度か警察に當會の事を惡く告げて復讐をし樣としたが、邪は正に勝つことは出來ないのであります。

斯くの如き有樣で、二割五分は家庭が破壞されて居ります。其の原因は結婚申込の際に膨大的なる男子側からの報告によつてゞあるが、又婦人の過失にもよるのであります。婦人側の過失は多く先方をよく調べず其上出發前に横濱のホテルに居る時に誘惑におち入り、又は十五六日間の船中で同じ乘客の甘き言葉にうかされるのであります。二千七百八十人と云ふ婦人が、年々横濱から出航するのですが、皆樣はこれに注意し、又傳道されつゝあるかを聞き度いのであります。米國に出て行く婦人も男子も皆樣の兄弟姉妹でこの人達の彼の地に於ける運命は、即ち日本の運命であります。この年々その數をまして行く人民は到底日本の內地のみに居られるものではありません、何處か他の地に發展しなければなり

ません。朝鮮あり支那あり滿洲、メキシコ、南米ありと云ふ風に、土地はありますが、どうしても加州が第一であります。又昔から深き關係をもつて居りまして、もしこの渡米者が成功すれば日本の成功で若し破るれば由々敷事であります。それ故私はこれ等の婦人の爲に其の船中の心得や又彼地に行つてからの心得、夫婦になつてからの事などを女子青年會が盡力して頂きたいと思ひます。先日河井道子氏にこの事を申しましたが御心配はしてお居でになるが未だ着手は御出來にならないとの事でありましたが何卒早く御着手をして頂きたいのであります。何卒橫濱の女子青年會と此の本部とが主になつて、旅館に泊まつて居る婦人達を訪問して下さる事を切望いたします。むづかしい事で御座いますが、さすれば彼地で同胞がきよまる事であります。從つて米人より排斥されるやうな事は起りません。申すまでもさりませんが私は同化が一番大切だと思ひます。色の黑い鼻の低い者が色の白い鼻の高いものと同化は出來ぬ樣ですが、私共の天の父は一人であります故出來ない筈はありません。兎に角彼地にて同化し米人に敬愛される樣になりたいものであります。其故私共は彼地にて家庭に不和あれば飛んで行き又上陸の際などにも何か事があれば行つて盡力をするのであります。何卒これらの婦人の爲、もしくは同胞の爲に御注意下さつて御盡力下さる樣に御願ひの爲こゝに參つた次第で有ります。

●葉書募集

同情ある讀者が本誌のために與へらるゝ御親切なる御忠告を承りたし

我が『女子青年會』の內容につき

【一】長所●（これでも何か見るべき所がありませうか）

【二】短所●（數へ切れない短所は何々でせうか）

【三】要求●（どうしたら善いものになりませうか）

の三點を簡單に葉書に認めて七月中に左記へ御送りを願ひたい。皆樣の御所見を承ることは實に本誌改善の端緒であります。至囑々々

東京市牛込區田町三ノ十二　日本基督教女子青年會編輯係

葉書募集

靈肉の救療

傳道義會附屬醫院長　森田八十郎

今より十年前に私は田舍から上京した時に舍弟外村に伴はれて東京本所區から市外千駄ヶ谷へ行く途中鮫ヶ橋を通りあれが東京市中の大なる貧民窟だと説明されたが其の時は私は在學中であつたのでそんな事は聞き流しにして居たがそれより二三年立ちて後其の隣な人々の爲に働くやうになつたと思ふと甚だ面白く感じられる。其動機といふのは私が醫學專問學校を卒業後田舍に居りました所が外村が俄に臺灣の特別傳道の爲に二三ヶ月あけねばならぬ突然の事でしかも遠くへ行くが平素彼れら勞働者の爲に働いて居るので一寸も手をあけて行く事が出來ないのでそれならば私が留守をしやうと云ふ事になつた。其の留守中の事舍弟が以前から種子を蒔いて居た鮫ヶ橋附近の某勞働者の家を訪問した時にその妻が病氣でゐましたので醫者の事をきくと診察して貰ひはするが五十錢をもつて行つて釣錢もろくに貰へず中々續かない故につい怠りがちとの事、此の婦人は非常な難病でかつ家庭の平和も亂れて居るらしい、それでは私は醫者だからそう云ふ事情ならば私が治療をして上げやうかといふて居る時主人が歸へつて來て『私共の身分では精々一日の藥代が五錢位ならば何にか出來ますが五十錢で釣錢も貰へなくてはどうも醫者にも不義理をするやうになる具合』とのことで私は大層同情した。歸途思案して先には學問をもつて身を立てんとせしも今かくの如き事を見自分はかゝる人達の爲に働く方が一層神の御心に適ふだらうと思ふた。直ぐ四谷にて煎藥を貰つて來てその家の土瓶で煎じて飲ませた代金を問はれて十錢位でよ

いと答へると勿體ないと云つて大層喜んだ青年時代に天職と云ふ事につき論じた事など思ひ出されて遂に愈々貧民の爲に働かんと外村へも手紙を出して決心を明かし、また初は救世軍へ入らんと思ふたがやはり弟の働を助けたいといふ事になりました。私には別に何等餘裕もないが郷里には小さき家と地面とがあるから郷里に手紙をやつて出來る丈の資金を得て遂に働を始めました。

先づ私は弟と相談の結果慈善の事であるから患者はいくらでも藥代を貰つた時に箱の中に入れる定めにして神の御心にかなへばその事は必ず繼續して下さるならんと先づ信仰によりて爲さんと決心して始めました。

四ッ谷信濃町十番地が一番始めの場所であつた、そこは前から外村が傳道の集り所であつたが三人の老人が住んで居た其處へ診察所を持ち込む事となつた處が老人等も快く承諾した。所が一向金も出來ず始めるに付いても困難が澤山あつた、何もかも整へるので隨分金もかゝつた。外科を主とせず内科を主として醫者の家で丁稚をしたので其の經驗で道具も多くは要せずして始める事が出來た。集りの時用ゆるテーブルが調劑臺となりそこにあるぼろ椅子が役に立つといふ具合、それから寢臺を作りぼつ／＼始めました最初多くの人が來るだろうと思ふていたら案外やつて來ないそれは施療の醫者にろくな藥をよこすものがないと見くびつての事でした。けれ共其家の老婆は界隈の評判の高い人なのでその人の口が廣告となりて患者が來るやうになり淋しかつたのはほんの一ヶ月ばかりですぐ盛んになり人々も施でも相當の藥は貰へると考へるやうになり且聞き傳へて多數やつて來ました。勿論多いのは近所だが千駄ケ谷柏木淀橋中野澁谷の方面からも來るやうになり且有がたい事には中にはなほつたからと云ふて來るものもあつた、又時には立派な人が來て此處は貧民のためだとて御斷りする事もあつた。又相當に事務上の困難があつた、ある時は警察から來いと云ふので

早速行つて見ると『あなたは何番地の何某を診察せしや』『否』けれど彼れはあなたの所へ行つたそうだ』そこで私はいろ〳〵考へて見るとそれは子供で一度來るには來たが、丁度日曜で私が宅に居らなかつたから斷つたらしいと答へた、すると『何でもその子供の母がいふにはあなたに見て貰つたら蒟蒻でむしておけばなほるからといつて藥を下さらなかつた』と『いゝえ決してそんな事はない』と私は答へたすると『それならよろしい實は不審のかどかあるから御呼びした次第實はあの母親は貰ひ兒しては金を儲けるが、食物を與へず自然病身にして殺す事がある性質のわるい女だ貴所が御診察なさらなかつたのなら御迷惑でも否認狀を書いて下さい』といふ、困つたが仕方がなしに書いたこともあります。

ある時は五ケ月許りの胎兒が棄てゝあつた、その時も警察から呼ばれてそれを惡く取扱つたと云はれ思はぬ濡衣を着せられたことも有ります。然し私はかくの如き職をして居るので知らずして嫌疑がかゝるのである、かゝる事は同情をもつて貰い度いと云つたこともあります。斯る事があるので警察でも私の事を知つてくれるやうになつた。或る時はジフテリヤの患者が來る一體このジフテリヤは血清注射をすればなほるのであるが貧しき人につきては大金である故むづかしい此の患者は私の所へ來る前にある近所の醫者へかゝつたら三圓持つて來いと云はれた家へかへつて考へて見ると金の出所がないので困じはてた揚句私の事を聞いてやつて來て助かつた、かゝる場合には貧民に取つては誠に悲慘なものである倘傳染病には屆や入院の手續死んだ時の面倒などもありましたが今日まで都合よくゆきしは神の御惠と存じます。

折々安宿へ行き調べますと、或者は三疊か二疊の室を借りて一人住ひして居り所有品は辨當箱が一つと印半纏が一枚かゝつてあるきりそれで孤立の狀態になつて居るので病氣の時などは困る、一體そう云ふ人達はひどくなるまで棄てゝ置くので、醫者が行

く時には其の病人はもう口が利けなくなつて居る次第です、醫者の一番困る場合は物言はぬ患者に逢ふ時である、今までの狀態をきく事も出來ず、そう云ふ時には學問上から行かねばならぬ。

鮫ヶ橋よりひどいのは新宿南町殊に雨天の日が最も悲慘で雨が幾日もつゞきました時などに貧民界の研究に行きて見るとよく解ります。狹い路次見たやうな往來は泥波がうつて居るので汚い事夥しいが然し考へてみると醫師は其處へ行くのはたゞ一時の事だが、しかし彼等は一週間でもいつまでも雨の續く限り其處へ居るのである、非常に氣の毒な思が致します。

扨其後施療所は東信濃町二番地に移りました以前の家よりも廣いと申しても玄關が三疊診察所が六疊奥が四疊半丈で人々は外の塵芥箱に腰かけて待つて居る次第もう少し改良し度い、診察は一人づゝやるから廣い所はいらず待合室は廣くあるべしと思ふては居ましたが致方もなく其處にて間に合せて居ました。斯くの如き事からしてどうかして都合よくなりたいと思ふて居た所河井道子姉其の他の方々の御盡力により市ヶ谷谷町の元監獄跡に新築する事が出來る樣になりました。此處の所は遠く山の上に建た城の樣な氣がし、そして受付もよく出來患者を整理するにも都合よくなりました。尚嬉しい事は患者が立派な家が出來たと喜んでくれた事であります私も一所に滿足しこの頃では患者と共にゆつくり感謝して居ります。

扨日を送つて居る内には隨分困難もありましたが又人知らぬ喜びも多く味ひました。鮫ヶ橋のある小兒が肺炎で死にし時いろ／＼手を盡したのを其の親と十才になる子供が頭を板につけて私の手當を喜んでくれた、この有樣を見たら私は何う云ふ貴い働を神樣は御與へ下さつたらうと思ひました、かゝる例は一々申上げる暇がありません。私は何日か『陋巷にありて樂しみあり』と書いて貰ひ度いと思ふて居ります。或る人が信濃町醫院では院長も受付も一人

なりと云つた程へてから一つの教訓を得ました、其は院長は私ではないキリストである私は只其の院長様の下に働いて居るのであると感じた時は實にうれしく喜ばしく思ふた。爾來其考へをもつてやつて來たどうか神の御霊によりて 私は充分に働きたひと思ひます。

今度牛込區市ケ谷町に新築いたしましたのは醫院と傳道會館とを兼ねますので私は從來通り醫術にて弟外村は傳道せんといたすので御座います。此場所は以前監獄署のあつた處幾多の人々の怨恨疾病罪惡が充滿して居た場所であります其所に今キリストの名の下にかゝる事業を成さんとして小ながらも此傳道義會と醫院が出來。靈肉の病を癒さんとして居ります如何なる美しき神の業が當館にてなされるか誰も想像は出來ません何れ諸姉妹の御祈に依りて使命を果したいと存じます。

（本稿記者森田氏は本號會説中に誌したる如く慈善篤行の人にして本誌のために其事業の經過を認め寄せられたるものなるが、誌上に現はるゝに先ちて本人の永眠され本稿が最後の筆となりしこそ痛哭の極なれ。記者誌）

信仰生活のしほり（四）

松榮 譯

第三 聖書を讀むこと

信仰生活につき、第一祈禱、第二瞑想は既に之を云ひぬ、第三はこゝに掲げし題目なり。我等は決して之を缺く可らず。

聖書を讀む前、まづ、父、子、聖靈の神の聖前に自らをおくべし。神にいのるに左の句あり。

『なんぢは我を見玉ふ神なり』（創世記十六の十三）

『しもべ聽く、主よ語りたまへ』（サムエル前書三の九）

『わが見ざる處は請ふ我に教へたまへ』（ヨブ記三四の三二）

『なんぢわが眼を開き、なんぢの法のうちなる奇しきことを我に見せ玉へ』（詩一一九の一八）

おのがじゝ祈る言葉はあるべきも、なほ、祈禱文

よりとらんに、
『我等を教ふる爲に、聖書を記させ玉ひし主よ、願くは、之を聽き、之を讀み、周到に學び、且つ味ひて、靈魂の營養と爲さしめ玉へ』
『願くは聖恩によりて堅く立ち、福音の眞理を守ることを得させたまへ』

あらかじめ規をつくりて、正則に聖書を讀みつゞくべし、規をつくるにあたりては、多きに過ぐるよりも、むしろ控え目になす方よろし。
『誓願をかけてこれをはたさゞるよりは、寧ろ誓願をかけざるは汝に善し』(傳道書五の五)

聖書を讀むにあたり、神語り玉ふ、神われに語りわれを敎へ玉ふの思をかたく心に持すべし。

時に名前のみならべある記事の中に我らは敎訓を見出さん、列王前書十六の三三の如き、神をしかく激怒らせしもの丶何なるかを我等に考へさすべし。又使徒行傳二〇の一三の『彼陸より行かん』の一句の如き、我等は此等の語より大なる敎訓を得べし、ゴールバーンは、聖パウロが獨り居べき必要を感じ恐らく、ことさらに、靜かなる祈禱と瞑想の機會を獲んために、この獨行をはかりしならんと云ひ居れり。か丶る例は數知れずあるなり。我等が聖句に耳を傾くる時、我らの全生涯を一變さすべき新しき思想の來ることもあるなる可し。

聖書を學ぶに就きて、二三の注意をあぐべし。
(イ)一部をとりて、漸次之をおしひろむ。主イエスの地上の御生活より、キリスト敎會に至るが如し、
(ロ)概括より始めて部分々々に至る、アブラハムの個人的家族的生涯よりはじめて、其子孫の國民的生涯に至り、更に荒野の生涯、カナンの移住、異邦人への宣敎、敎會の組織、更に我等自身も此大なる敎會の一部なること、我等亦各自の生活と言語に由りて、何處にありても主キリストの證し人たるを學ぶに至る可し。是は極めて大體のことなり、之をなし遂ぐるは短日月にては能ふ可らず。(ハ)聖句を暗誦する習慣を練ること、吾人の記憶を、人の言葉もて

富ましめんよりは、神の言葉もて富ましめよ、學ぶに遲過ぎる事は無し。神の榮の爲、自己の善の爲に人の益となる爲に、空しき思ひを懷かず、聖き思ひをやしなふ爲に、我等の心と記憶とを聖語もて滿たしめよ。

『われ、汝にむかひて罪をかすまじき爲に、なんぢのことばを、わが心のうちに藏へたり』(詩百十九十一)

(二)引照の句を參照し、或は索引を用ひつゝ學ぶこと、同語に含まれある多樣の意味を注意すべし。例せば神の子といふに。(一)すべての人類。(二)すべて洗禮に由りて神につながれる人々。(三)更に深き意味に於て、神の憂に應じたるすべての人々。(四)奴隷の軛を全き信賴と換へしすべての人々。(五)甦の子(聖ルカ傳二十の三六)。等の意味あるが如し。

(ホ)前後の文脈に由りて聖書を學ぶこと、前後の關係を知らざるより、我等はあやまりたる解釋、引照をなすこと少なからず。

『かならず汝等の罪、その身に及ぶと知るべし』(民數記略)

の如き、屢引照さるれ共、前後の文はまゝ等閑にせらる。こは、自己の靈的特權をたのしむのみにて、その兄弟をかへりみざる話より出でたる、キリスト信者にとりて驚くべき教訓なり。魂が死しつゝある時にも猶眠り得る靈的氣隨を指せる特別なる罪を云へるものなり。(ヘ)聖靈の助けにより、舊約聖書のおきてより、キリスト者の生活にあつべき原則を見出づるは興深きことなり。聖保羅の例に見るに、

穀物を碾す牛に口籠をかく可らず。(申命記廿五の四)

モーセの律法に、穀物を碾す牛に、口籠をかく可らずと錄されたり。神牛の爲慮り玉へる乎、又は我等の爲にのみ云ひ玉ひし乎、こは我等の爲に錄し玉へるなり。そは耕す者は望ありて耕し、穀物を碾す者は其穀物を得るの望ありて、碾すは宜なれば也。我等もし汝等の爲に靈のものを播きたら

ば、爾等の肉のものを獲りとるは大事ならんや。

（コトント前書九）

（ト）神の永遠の眞理の二様の側面を聖書より學ぶこと、われ等は之を看過す能はず、而も、兩者を實感し一致させんことは、殆ど不可能の感あるなり。（一）神の豫選と自由意志。凡ての物の神より出づるは聖書に由りて明なり、而も自由意志も同樣に明白なりこの二つの眞理を共に受けて、兩者より敎訓を得よ兩者の調和は神にあり。（二）神恩をうくる道、或信者は洗禮、聖餐に重きを措かず、聖書の硏究、ひそかなる祈禱、同じ信仰の友との祈禱をのみ重視す、又或信仰者は、神の祝福をうくる道は一に聖餐にありとす。而も神は眞理の兩側面を啓示し玉へるなり（三）洗禮と回心、洗禮による我等の特權の眞理は聖書に明なり、而も回心の要も同樣に聖書に明かなり。（四）聖職の助け。或者は『余は神の外にまた何者をも要せず』と云ひ、或者は聖職にひたすら賴る是れ共に、眞理を偏したる見解なり。聖書に於て我等は聖職の任命を明らかに認む、而もベタニアのマリアの如く、信者が主御自身に直接に近づきまつることも、聖書に明らかに錄せる處にして、共に眞理なり。實際の問題は、神がその聖職を通して與へ玉ふものを受けまつると共に救主を忘れざることなりモーセとエリアはさりて、『イエスのほか一人をも見ざりき』山上の御變貌の記事を思ふ可し。神の聖職へ行きて敎を乞ふは可なり、されど萬事にたゞ人のみを賴りて、活ける神に活ける信仰を失ふ可らず。時として、規則を解し兼ね、眞理を解き得ぬ事ある可し、されど常に、我等が信じまつり、また我等が審判せらるゝは、抽象的なる觀念には非ずして、活ける神なる信仰にかたくよる可きなり。指導者多く、敎師數多き今日は、敎派別などに心をなやまさるゝこともあるべし。されど活ける神に信賴せよ、能ふ限り正直に、自己を聖前におき、聖書をよみ我らの主に、われらの暗きをてらし玉はんことを祈りて、聖旨を知らんことを求めなば、主は、主のよし

と見玉ふ方法と時に於て我等の要する教訓と指導とを御自からの聖語より我等に與へ玉ふ可し。他の何物を讀までありとも、聖書をばひもとかしめよ。「この故にわれらエホバを知るべし、切にエホバを知ることを求むべし」(ホゼア六の三)「我は生者なり、前に死しことあり、視よわれは世々窮なく生きん」(默示錄一の十八)(完)

關門聯合傳道大會

女子學院學監　三谷民子

此度の關門聯合大會に於て私は各派の聯合といふ事が興味ある事と思ひました、六ケ所にある各派の教會がありまして例へば東京と大森と横濱との如きが聯合して關門聯合講演會といふものを組織したのであります、其仕度は非常なもので東京から知名の方々も御いでになり、其他京都大阪神戸からも應援されたが、私も其方々の末席を汚したので御座います。主に婦人會を御手傳する筈でありましたが、よい機會があつて高等女學校或は男女合併の演說會にも出席致しました。同地方の人々は其心に基督教を受入れる仕度が充分出來て居りますから種子の蒔方、苗の植付方に依つて傳道の目的は達する事が出來ると思ひます。舊い習慣とか道德とかでは心の滿足が出來ないので命懸けで信じ命懸けで捉へたい一つの物を希望する事を證明して居りますそこで大きな勢を出して基督教が希望する所のものでは無いかとの意氣込で集つたものと見えます、或大劇場での講演會の如きは千二三百人の集會で上下ともぎつしりで人の頭が波の樣に見えます程でしたそして其靜肅な事は咳一つしてもわかる位でした、二年前はこうは無かつたと聞きました、多くの信者自身が出席して居つた事は勿論ですが聽衆が眞面目に耳を傾けて居る事は事實であります、又信者の熱心な活動には感じました委員の赤い徽章をつけた男女が電車の停留場、渡船場等で客人を歡待さるゝのは誠に喫

く郷里に歸つた樣な思をさせます又食事、宿泊の事に就ては行動表を頂きますから少しも差支ませんでした、準備の爲に頭と時間と金を費されし事は感心する外はありません、門司に長尾氏が鐵道管理局長として居られます事は成功より寧ろ仕度の上に多大の便利があつた事と思ひます。次に一致聯合の力は凄じいものなる事を深く感じました。前述の如く行屆いた準備を目撃した私達は日に三度四度のいはゞ激務而かも馴れぬ女で方々に轉じて講演する場合にも嫌氣のさゝなかつたのは土地の方々の手柄と存じます、御手傳をさせて戴けば有り難いと感ずる程整つたよい集りで確かに御成功であつたと信じます、今は品よくして助の入要な人ある時に人の紹介を待つてお辭義がすんで初めて手を出すといふ場合ではありません、四海同胞といふは名義の上のみならず形式に拘泥せず或場合は威嚴を以て嚴な威を持たせる必要がありますけれども今は早い事を望む眞劒な場合で形式に拘泥して居られぬ場合と存じます。私共が心地よく働けましたのは虚禮を省かれし事が其大原因で御座います、都人の方が此點に於ては學ぶべき所があると感じて歸りました、乃木大將の出られた樣な長州の事故武張つた性があると思へば商業上の利益にしか目をくれぬ處もあり自我の强い所で信仰の故ではありますまいけれど風習から寺院が多く佛教が根を生して居りますから此種の講演會は容易い事と思へませんそれにも關らずかく盛んで、之によつて得た求道者は現在の信徒に倍するといふ事であります成功と云はざるを得ません。

これは實に神の力の加はる處に人は敵對する事は出來ぬ事を證明するものと思ひました。

文明の嵐の中

在米　加藤高子

十一月廿九日朝。昨日午後一時友人と共にミルオキーを出立して三時頃に立派な大きなシカゴ停車場

に着き、又もう一人の友人と一緒になつて、五錢ニッケルを拂つて馬車に乗つて女子青年會の支部に來ました、此處のミス、バトンとて米國內に居る日本人支那人の女學生を訪問する役の方に御目にかゝつて暫時親しく御話致しました。ミス、マッシユーや河井先生の御話しも出ました。何の爲シカゴに出たか、御存じですか。即ち女子青年會幹事候補者の爲三週間講習會があるので私もそれに出て參りましたのです。ミス、バトンに別れてから三人で高架電車に乗る爲に市中を少し歩きましたが、霧の上に大きな高い建物があるのです、暗くておまけに招魂祭の人出の様な中を寄り分け押し分けして通りましたが互に手提を片手に持つて居ますので困りました。さすがに、シカゴです。三十分程電車にのつて此のエリナ倶樂部に參りました。雨となつて來ましたので三人とも心細くなりました。此倶樂部は大きな個人の住居であつたらしい建物に少し手を入れて倶樂部用としてありますので、家庭らしい感がします。なかく高い立派なもので大きな客室が二つもあります。宿舍生は廿人程居りますが、青年會とは加盟はして居りませんがシカゴには青年會の寄宿所がありませんから、此處と連絡がついて居ります。扨呼鈴を押ました處が監督者が出て來られ。まあ、ミルオーキー女子青年會の研究生ですか、本部からの通知では土曜日の晩からと云ふので今日ではないと思つて居ましたとて困つて居りましたが、私共は一日でも講演に後れぬ様にとて來たのですもの。少々閉口致しました。記名をして先づ部屋を見ました、ミス、ヌクルが加藤は一人の部屋にしてやつてくれ疲れた時も靜かに休めるからと、一人の友人に申して置いて下さつたとか、私は一人で一室、他の二人の方は一緒とは餘り無理な事でもありましたし、一人では全く心細く存じましたので、大きな部屋に三人一緒と云ふ事に、私から願ひましたら、それなら安くも上り好都合と云ふので、一週間分先に拂つて、事を定めました。やがて一時間半程もたち、部屋が調ひ

ました。が、しかし、空腹で口も利けません位で唯々食事時の六時半を待遠しく待つてました。食堂は下層で私共三人と、もう一人他より來たと云ふ人と四人で一つのテーブルを圍みました。スープと牡蠣と芋とプディングでした。御馳走は結構でしたが御寒くつて震へてました。まあ、お腹も一つぱいになりまして、上に來ましたら暖くて心地よくなりました。これが渡米後初めての事でしたら、直ぐにも蛙の目の様な涙が出た筈でしたが、三人とも一緒でしたから互に慰めあつてました。窓外の喧しいのには全く初めてゞした。この場所は雑踏した市中からは離れた處ですが、此建物の玄關から左に十間程行きますと、高架鐵道の線路が四筋、右一町にして市内電車線、後に二町行つた處に又もう一つ、前と横の道は馬車自働車等の往來不斷、たまりません。まるで機械場にでも居る様！　初めての一晩はとても〳〵寢られません。まあ、市民はよく神經衰弱にならない事と氣遣ひます。此の分では私も睡眠不足病にでもなる事と心配して居りましたが、一二日前からは熟睡が出來る様になりました。慣れると云ふものは不思議なもの、餘り氣にならなくなりましたが晝でも夜でも、市中活動して居るのには、唯々呆然の狀態です。五番町で大嵐の晩、寢られないで困りましたが、あれより確に强い嵐！　文明の嵐が吹いてます。最初の晩は寢たかと思ふと目がさめて、隣の友人の様子を見たり、幾度も寢返りをしました。まあ、私は馬鹿でせう、一度、もう、朝と思ふてました、それは洗面所で顏を洗ふ水の音がしたりしましますので、これはおそくなつたと思ひ飛び上り友人の方を見ましたら頭が見えないので、全く起きられた様子。床から飛び下りて窓の方に參りましたら加藤さんだうしたかと云はれて我にかへりましたが、時は未だ十時頃かと存じます。誰れかの就床前の入浴を朝の洗面と間違へたのです、斯様なわけで一夜を送りました。誰れもかも、寢られませんで苦しい一晩を送りました。まあ〳〵面白い一日でした。こ

れから學校に參ります。此れから三週間のシカゴ生活を御通知致します。皆が同じ目的で然かも同級になつて居ますから餘程容易に感じませう。

十一月廿九日。午後、今朝は十時から講演が初りました。外國の働に就きて一時間、日本、支那、濠洲、印度、南米の働きにつきても。ミス、マッシューと河井先生の御名が出ました時は嬉しくて自慢らしく感じました。

十一時からの講演は『基督者の義務』につきて熱心有益な御話、數種の參考書を指摘されましたが、見る本がほしくてたまりませんが唯望むだけ。出席者は十四人でした。米國中部から一名來られました午後十二時半に向ひの輕便食堂に行き食事をすませ雨中の市中を少し歩いてから電車で歸宅。全く眠むく疲勞して直ぐ三十分間程休みました。出席者中此所に宿つて居るものが私共と他三人で御座います。

昨日、十一月號の『女子青年界』をいたゞきうれしく讀みました。私の記事はおかしいのですが、もし誰かの御慰になれば結構です。余程雜誌購讀者も出來て有望の樣に存じます。個人の所感消息は一番力强く存ぜられます。購讀者や會員が奮發して雜誌の部數をふやさねばなりません。

十二月十日、水曜日、今日は朝中は講演は休み。太陽がニコ〳〵窓からさして日本からの御便りを語りたいと申してます。扨講演は毎日同じ講師や新先生などで題も樣々です。今日の事を申上げますと朝二時間が青年會の歴史で色々のカミテイがあるので餘程頭を使ひましたが、よくわかつて來て嬉しく存じます。皆さんは試驗があるのですが私は來春まで延ばして下さいましたから氣を揉まずに勉强してます。次に簿記法が一時間。之れは余程注意しました又三番町の會計を直ぐ思ひ起し、泣いた事も、小畑さんの處に帳面をもつて行つた事も、三番町の卓の樣子も、幹事方の事も、皆頭に浮んで來て、獨り面白がつてましたので、一寸講演から御留守になりました。大變精細に出來て新式だとかですが、一度や

そこらではわかりませんから、後からよく伺ひませう。けれど三番町に居つてミス、マッシユーが一錢でも二錢でも會に來た金は銀行を通さねば出入は出來ないとの御言葉が今はじめて明瞭に解かりました又新會員と舊會員との整理を三番町で苦しみましたので黒白もわかつて嬉しく御座いました。同盟慈善事業の講演を聞きに何とか云ふ町に參りました。直譯すると社會奉仕局とか戸にかいてありました。色々組織だつた組織を見せてもらいましたが、六かしく混雜して一寸もわかりませんでした。午後一時半から又諸倶樂部の參觀です。シカゴ中に私共の宿つて居る樣な倶樂部が、尚六ヶ所あつて五百人から居るとかです。立派な基督教精神を表はした働き人の多くに御目にかゝられて嬉しく存じます。面會する丈でも良き教育です。かの有名なミス、アダムスの社會救濟事業を參觀。外村義郎氏を思ひ起しました。ミス、アダムスには殘念ながら面會が出來ませんでした。子供のダンスの御稽古を見たり、帽子製造室や、裁縫室や、何から何まで見ました。世界で名高いのださうですのね。食堂もあります。私共其處で卅五錢の晝飯をすませました、心地のよい調和のよい建物でした。

扨、毎日八時半に家を出て高架電車に乘つて全く高い〳〵建物ばかしの町に行きます。私は部屋の二人の友人の間に入つて歩くのでなければ、どうもどうも一歩も足が出ません。殊に晝頃の人の群どこから來るのかしらと唯々驚いてます。巡査が唯々一二度吹く笛で電車や自働車が通行人を通しますがよく怪我人のない事と、巡査の機敏な處置には驚嘆の外はありません。いくら太陽が歸つて來ても、こんなに高い建物ばかしではなか〳〵人の目に入りませんもの、太陽が嫌ふのは勿論と馬鹿な事を考へてました。私共の講演のある處は某舘の八階にある少さな室で、十四人がきいて居ります。毎日五時間位御座いますが、なか〳〵六ケしくて解りかねる事も多く御座いますが、要點だけはとつて歸つてから、ノー

トを拜借して整理致します。十二月七日の日曜日は終日部屋に居つてよく休みましたので、月曜日には元氣になつて樂しく愉快に一日を初めました。朝二時間が聖書、青年會歴史が二時間、私はミルオキーで一度讀むで置きましたので大變たやすう御座いました。然し此の世界的の事業なる基督教女子青年會の運動の最初は僅か二三人の祈りの集りであつた事は特別嬉しく存じました。年號や人名を記臆するのは丁度塾で文學史でもやつて居る樣な心地！　實際に事業を見習ひながら歴史をしらべますのは全く興味が二倍に存ぜられます。夜は何をしたか想像がおつきですか。食後、芝居見物！　五十仙の最下低の甕棧敷で。有樂座より小さい模型で立派ではありませんでした。極單純な仕込ですが現代の金滿家を諷刺したものでよい教訓がある劇でした。

窓から見た、然も十三階から見下した湖水の景色は美しく御座います。鐵道線の數條がまるで玩具の樣に見えますのは全く日本で見られない景色です。

二人前の感謝

莞爾生

妻君の鼻息を窺ふ夫。教育を鼻に懸け夫を重んぜず、自分の意見を通さんとする妻君。之れ程見苦しいものはない。余は或る日某家を訪問した時、妻君が玄關で挨拶せられたが上れとはいはれぬ。余は「友愛會の訪問日ですから、御尋ねしました。御主人は御在宅ですか」と押し强く出た主人は餘儀なく玄關へ顏を出した、御上りなさいとお極りの挨拶があつたから靴を脫がんとした、主人は更に妻君に差支ないかと問ふた。妻君は「彼處へ往くのではありませんか」との答余も少々不快に感ぜざるを得ぬのであつた。主人は一寸でも上つて貰ふではないかと鬼を付けて二階へ通された。併し時は既に午後一時半であつた、未だ食事前と知り寔に氣の毒に思ふた。次に訪問したこれは夫妻今や外出せんとせらるゝ處、余を見て喜んで二階へ通された。此家の妻君は既に信者であつたが、良人は此日洗禮を受けられ、恩寵と歡喜に充されてあつたのである。余は種々信仰談を爲し祈りをして別れたが妻君の目には喜びの涙が湛へられてあつた、兩人は程なく教保の方の病氣見舞と受洗の挨拶の爲大森まで參られた。前者は常に外國人と接するハイカラの家庭、後者は商人の純日本式の家庭である。過渡時代の我國にはまぬかれ難いのではあこが傍目から見ると木に竹を繼ぐ樣な遺憾の點もあるからよく〳〵注意せねばならぬ。此程或る友の話に、妻君が信者であつて良人を導かんとするものは兎角失敗に終るものが多い。妻に曳かれて教會參りも感心せぬからである。それよりは妻君が神の惠みにつき二人前の感謝をなし。又神の前に夫の罪をも負ふと云ふ方でなくば成功せぬとて例を擧げて話されたが此の心得であつてこそ家庭をクリスト化する事が出來るに違ひないと切に〳〵感じた。

小説 # ひとりぼつち後篇

河井道子 譯

第三章（つゞき）

ベテーはラセル氏を門口まで見送りながら傍に咲ける紅薔薇を摘り帶に挾んで、

『一年中日が照り花が咲て居て欲いものです、初夏は何で心地のよいものでせう、人が善且幸福でありたければ田園生活に限りますね』

『遊惰漢に成りたい様だな！』と頭を振り『不可々々、人生の深刻なる實際を避ては却て品性を傷つけるので不可、日光や花は人間を着實とか剛毅とかにはせぬ、女子も男子同様に逆風に遇つて心膽を練り目的を强固にせぬと不可』

『私にはまだ自分の生涯の目的など發見らないのです、何卒私のを見出して下さい』と微笑は消えて居が可憐な曲線を畫きなしたが又忽ち笑靨が顯はれ、

『併、嫁に行けとは仰らないで下さい』

『何日も然う云はれて居るらしい』

『そんな事の當付ばかり聞ています』

『卿は其運命が厭なのかね？　結婚は奴隷なりと主張する婦人隊に加入したのかね。』

『そんな事思つた事もありませんが、交際社會では此問題ばかり持囃され、私は嫌になつて仕舞ましたせめて田舍に居る間丈でも他の思考で充たさせ度ものと思つてゐます』

『其では助けませう』

『御願で御座いますから助けて下さい、貴下は男子ですから女の子の様な詰らぬ事など、頭には這入つて居りはしますまい、私眞底から充實した樂しい生涯が送りたいのです。一體貴下の御生涯には何が充ち溢れて居るのでせう？』ベテーの此熱心な飾氣のない言葉に老紳士は心を射られて眞面目になり、

『昔日私の生命が如何にも空虛であつた時に卿が這入てきて活きた生命を吹き込で與たので其御蔭で眞個の滿足と充實の源に辿り付たのである、卿は今心

に飽き足らぬ處があるのだが、地上にて幸福を造る材料は皆卿のもので即ち妙齢、健康、氣力、皆具はつて居るのに不滿とあるは理由があるだらう、卿が小供時代に持て居た神に對する信仰と愛とは失なひはしまいネ』

處女は顏を赧め、

『其は失ひませんが私は誰の爲にもなつて居ないのです、一時に何でも面白くなるかと思へば直に嫌になる變り易い不平を竝べる人物で、善良になりたいと願ひはするけれど出來ないのです、實に惡人なのです子供の時から善はなかつたんです、サー皆懺悔しました、是から私を如何して下さいます?』冗談に紛らす娘の眼には流れぬ涙が輝てゐました。

『他日よく說敎して上げよう、次回に來た時は白の日よけ帽子を忘れぬやうに、左様なら』

『左様なら、難有う御座いました』と會釋して小歌を口吟みつゝ足早に輕歩ていつて仕舞ひました。

永年經たがベテーはベテーで昔の通りの機嫌買だと考へながらラセル氏は家路を辿つてゐました。

第四章　薔薇の歌

暮色靄然たる一良夕、ストワード夫人は窓際の長椅子に凭れ、マレーは膝に手を組み、夕暮の庭面を儚然として凝視て居ました。室内は淡紅、深紅、純白の薔薇花で馥郁として居ます。古風な銀製の吊ランプが洋琴を彈て居るベテーの縮毛や感情深き面色や靜淑な容姿を朦朧と照らしました彈奏者が感情の迫まつた歌ふ聲は、蔭にて聽いて居た或る人の心を甚しく刺激しました。

「刺なき薔薇は何處ぞ我父よ。」
「知らず我子よ此世には
色香妙にも咲くばらの
愛でにし人をさゝぬなし
「胸た飾さん薔薇の花
されど刺あるをいかにせん
只かなしげに眺むのみ」
「否とよ我子、汝が指を
堅く小枝にからませて
苦はそも[illegible]の姉妹ぞと

忘れて薔薇を手折れかし」

歌の終るや外の小砂利に、足音聞ゆと思へば、ラセル氏の聲で、

『奥様參りましても宜敷う御座いますかヂエランドアランデルと一所に夕飯をしましたが、餘り良夜なので二人が散歩に出かけ、不躾ですが一寸御寄り致した處です。御紹介！　いや以前から御知合仲でした』

かく云ひつゝ二人の男子は扉に似たる佛蘭西窓から這入て來ました。夫人は徒然のまゝに、何時でもラ氏の訪問を快く迎へるが常でした。ベテーは會釋しつゝ、洋琴から離れ樣とすると、ラ氏は頭を振り

『其處を退いては不可。外で歌を立聽ましたのです薄暗い處、茫然と白い姿が見へるので、眞個の人間かしらと思つて、立留まつて聽いて居た處です。イヤ奥樣、恁麽ぞ御構ひなく、却て燈が強くない方が宜ろしいのです。ベテー最一つ薔薇の歌を所望ますが、今度は刺の事は忘れさせて貰ひたい』

『那麽に澤山薔薇の歌は存じません』と答へつゝ本を開きて又歌ひ出しました。

「我庭を圍みし森の合間より
覗くは何ぞ　白野ばら
廣き野もせに　羊齒や蘇、
庭には八千草　日に笑むも
我は望まず　花も香も
我眼はたゞに　打眺む、
我手及ばぬ　薔ばら
手折らんものと　うちわけて、
伸る手の　短さ笑ふ白薔薇を
眺め暮せり　夏の朝
我物にあられば　なほもしたはるゝ
心の中ぞ　不思議なれ。
庭にさわなる花咲くも
目には止まらず　たゞ高く
我手及ばぬ　おかしさを
笑ふ小さき　薔薇のほか。

『難有うベテー』と、彼女が本を閉ぢて此向ふに歩みくるを見て、

『ばらを切望するは無駄と云ふ教訓を今夜はうけるらしい、眺める丈はよいが、自分の所有となす勿れ

と云ふ譯らしい』

『何でも高い標準は努力をも昴めます、容易に得たものは大切にしませんからね』と、アランデル氏が申しました。其の聲は清朗でした。今マレーが隅にて上げたランプの其光が、若紳士の顔を照らした時に、ベテーは我知らず、呀として、さて何處で見たかしら、恁麼も見覺えのある風貌、よもや此の從容閑雅の紳士が、過日人なき野末に獨して、苦痛や激情を面相に顯はした人と同人ではあるまい。併し假令一瞬間ではあつたが、彼顔は忘却は出來ぬ顔で、ベテーの心に釘つけにしてありましたのですから。

ベテーは姉の側に坐し何も言はず他の會話を聞いて居ました。

『君は今の歌の結論で滿足が出來まいね。チエラード』

『何にでも高い所には梯子をかけます』と眼光愉快げに輝きての返事。

『禁止の果物は觸れぬがよろしい』とは夫人の忠告

『禁止する人に依ります』

『チエラードには戰ひ好きな多分子がありますが年を重ると共に其分子も冷却てますと說ききかせて居ります』とラ氏は辯解すれば、夫人は言を續き、

『今日は此好戰の分子が欠乏して居て殘念なことです物事に冷淡なのは大罪と思ひます』

『御尤です、善いことに味方して戰ふ、結構ですが運命とは戰はれません』

『運命て何ですか、私は宿命說など大嫌です、私はアランデル氏の徒黨に屬します、困難が大きければ大きい丈に打勝つべき努力を養ふてこそ、偉大になれるのです。世間には運命だの攝理だのと申す言葉を懶惰、無氣力、薄志弱行の楯に着て居る者が往々あります』

と夫人の氣焰なか〳〵盛んなので、

『拙者の言葉使が不當御座いました。勿論何かの難義に遭遇しても運命や天意として無頓着になるは罪の甚しいものでありますが又一方には、人間の力で

は到底打勝つ事の出來ぬ厄運とでも申ものが降り來る場合がありましよう」

「貴君の議論は畢竟敗るゝ迄戰ひ其厄運に於て及ぶ限をせよとの事でしようラセル君」とア氏の云ふを夫人は遮り。

「もう議論は止めにしまふ、さあ、アランデルさん貴所は、一別後何をして入らつしやいましたか、本當に御久しう御座います」

「遊んで暮したのでも御座いませんが」と漸く話題は他事に轉じました。

某國士官が日本留學の期を終へて
國へ歸りなむとしけるときに

木村靖子

下り立ちてなに拾ひけむみる貝の
　みすは別れのをしけくもあらし
夏木立さしおほふ門をよきむとき
　さひしからましみしんしぬふに

〇六號座談

六號老人

▲女子教育が日に〳〵盛になつて何より結構ぢやが、到る所當世流行の良妻賢母主義とやらいふのにや困つて仕舞ふよ。

▲勿論、女子は何時かは嫁して家庭を治めるものとなるのだから、良妻たり賢母たりでなくちやならないンだが、其良妻賢母の標準が、平たくいへば勝手元の經濟向や子供の世話の仕方や、そんな事ばかり敎へ込むのぢや、とんと感心は出來ないだれ。

▲勝手元の事や子供の世話が女子教育の眼目なら、或人のいつた通り今の女子教育は高等下女や高等乳母の養成をやつて居るンだよ。隨分馬鹿氣た話さ。

▲考へて見ると、今後の母は子供の世話をするとはいへ、只それ丈け母でなく高等教育を受ける。又た受けつゝある子女を訓陶する母であり、又た勝手元の御飯番をする妻でなく、高等教育ある紳士の助言者たり又た半身たる妻でなくちやならないだ。

▲其處に到ると、今時の女子教育は充分高等の教育も授けなくちやならんし、進歩した思想も、完全な德性も、高潔な信仰も備へるやうに教育しなくちやならん事が分るのだよ。

▲要するに、女子教育とて別事ぢやない、矢張り人間の教育だよ。完全な人間を作り出せば、ヤレ、良妻だの、ヤレ、賢母だのと言ふ必要はなくなる。完全な人間なら、それで良妻ともなれゝば、賢母にもなれるンだ。それが家庭の人となれば、家庭に於ての任務を完ふし、社會に出れば社會に對する責任を遂げ得るものとなるンで、完全な人間を作り出すといふ人間主義の外には婦女に拘らず教育の目的はあるまいテ。

馬可傳研究

マクドナルド

基督の訓陶（二）

弟子達は基督のなされた奇跡などを見て、勿論、基督の御憐み、又た身體と精神との關係、その輕重といふやうなことは大分了解する事が出來たでせうが、其與られた能力の原因といふやうな點は少しも分りませんでした。處が、九章の十四節以下に書いてある様な事柄を讀んで見ると、之は弟子達が其能力の原因を悟る事になつたと思はれる點があるので御座います。殊に其二十二節、二十三節に現はれて居る、基督と病人の父との問答を見るならば、基督に限らず、すべて神の大能の發現は『信ずる者に於て爲し能はざる事なし』の一言に於て遺憾なく發露せるを見るので御座います、此の問答は和譯の聖書の方よりも英語の聖書の記事は一層明瞭に基督が信仰力の強大を信じて居らつしやつた事が見へて居るやうに感じます。即ち、基督は病人の父が『爾もし爲す事を得ば……助けよ』と言つたのを聞咎めて、『爲す事を得ば』といふ假定詞は全く許さないで、『爲す事を得ば……』でなく、勿論、信仰だにあらば病人の治癒は可能事實たるを明確に認めて仰せられたるが判然と分つて居るので御座います。弟子達は此病人を癒すには失敗したのでありますから、基督の言葉を聞き且眼前にその爲さつた事の成功を見て、如何に基督の大能力の内容の信仰に充ちて居るかの活教訓を得たかゞ思はれるので御座います。是は、基督の弟子に對する實際的訓陶で御座いました。

以上に引例しました三の奇跡に就て考へて見ますと、基督の爲し給ふた事柄はすべて弟子達に對する教訓となつたもので御座いまして、弟子達は其奇跡を見て第一の場合には基督の深い憐みを知り第二に

於て精神と身體との區別、其輕重の割合を教られ、第三に於ては更らに大なる能力の發動は信仰の力による、即ち神にまかせ、神にたよりたる信仰に外ならないといふ事を明確に致されましたのでありましたと思ひます。

元來、この馬可傳福音書といふのは、馬可が書いたものでありますが、その馬可といふ人は基督の直弟子ではありません。後れて信者になりまして、此馬可傳を書くには使徒ペテロから聞て材料を整へたといふのが眞實のやうに思はれるのでありますが、この馬可傳の中にあらはれて居る基督は、活動的の人でありまして、毎日處々方々へ行つて、人々のために力を盡して、よき働をなさつた樣で御座います例へば、馬可傳中にある基督の奇跡は十九件ありまして他の福音書に比べると大分多いのであります。其代り教訓は誠に少ない方であります。此點から見ると約翰傳などとは正反對になつて居ります。これは弟子達に取つては實際的の活訓陶を受けた方面を多く認められるやうに思ふのであります。又た、もし一つの他福音書よりも多く書いてある事があります、それは基督の靜思された方面の事でありまして即ち基督が度々人を離れて野に退て靜に神と共に在つて祈り給ふた事で御座います。此は前に申ました奇跡などなされた活動といふのとは全く違つた方面を見るので御座いますが、これも基督が度々なさつた事であつたに相違ないのであります。(一ノ卅五、三ノ七、十三、四ノ三十五、六ノ四十五、六、七ノ二十四、九ノ二、三十、十一ノ十一、十九、十四ノ三十四、等)基督には活動の半面には祈禱がありました。祈つて働くといふのは基督の生涯の憲法でありました弟子達は活動すると共に祈禱せねばならぬといふ活ける教訓を此邊から受けたと存じます。

普通の考から申ますと、何か社會に大なる事業を爲すには、學問などを土臺として準備せねばならぬやうに考へるので御座います。勿論、其れもあります。しかし、基督は決して其を最も大切なものとは

致しませんでした。唯だ正直な心をもつて眞心から全力を盡して眞の道を歩みたいといふ望のある人々を選擇して弟子としました。學問でも智識でもありません。唯正直な心。其心を基礎として其上に活ける日常の事柄によつてあらはれるものを以て、訓陶されましたので御座います。そうして、弟子達は自然に其生命の秘訣を捉へる事が出來るやうになり、從て眞正の人柄を作り立てるに至つたので御座います。(此項完)

謹告

本誌次號は例年の通り來八月一日の發行を休み九月號に合併し、夏期修養會講演、記事、其他有益にして趣味ある内容と新しき面目を以て九月一日發行いたすべく候。此段讀者各位へ謹告仕候

七月一日

「女子青年會」編輯係

彙報

夏期修養會

日本基督教女子青年會第九回夏期修養會は例年の通り横須賀より一里許の大津勝男館で七月二十一日(火曜日)の夕より二十八日(火曜日)夕迄一週間開かれます。この修養會は諸名士より直接教へを受け、信仰上の友と語り、樂しき一大家族的生活をなすものでありまして回を重ぬる毎に友誼をまし、信仰を磨き、眞面目なる決心を促し。互ひに力を合せて御心の地上に行はるゝ樣に奬勵することであります。殊に年中境遇上、靈の飢渇を覺え居る方などは必ず此會にて靈肉共によき保養をなし、來る一ケ年奮鬪の準備が出來ます。委員一同姉妹方の同情に勵まされ全力を注いで其仕度に努力して居ります。幸ひ會場は眺望に富み海水浴に便に空氣は新清に浦賀、鎌倉への遠足も容易し。何卒信者、未信者。會員、未會員、御夫人、女學生どな

たでも奮つて御出席下さる樣希望致します。

格言　爾曹我を選ばず我爾曹を選べり、且爾曹をして往て實を結ばせ、其實を存しめんが爲、また爾曹の凡て我名に託て父に求ふ所の者を彼をして、爾曹に賜らせんが爲に我なんぢらを立たり●
約翰傳十五〇十六

○七月二十一日（火）夕

（午後七時）開會式　司會委員長　井深花子

○二十二日（水）午前

（自八時半 至九時半）聖書の組（開會中毎日同時刻開會）

（一）基督教一班（求道者の爲）　傳道義會主事　外村義郎氏

（二）基督の人格　搜眞女學校學監　山田千代子

（三）保羅傳　關西學院教授　吉崎彦一氏

（四）舊約書　豐島岡教會牧師　横田貞治氏

（自十時 至十一時）演題未定　救世軍大佐補　山室軍平氏

○同　午後

（自六時十五分 至同四十五分）夕陽會

（自七時 至八時）衛生法　學習院校醫　井上友子

○二十三日（木）午前

（五時半）早天祈禱會

（自十時 至十一時）神の召　外村義郎氏

○同　午後

（二時）親睦會　（自六時半 至七時十五分）協議會

（自七時半 至八時半）エスの教授模範　基督教日曜學校同盟書記　赤星仙太氏

○二十四日（金）午前

（自十時 至十一時）日曜學校の使命　赤星仙太氏

○同　午後

（自六時十五分 至同四十五分）夕陽會

（自七時 至八時）實を結ぶ修養　吉崎彦一氏

○二十五日（土）午前

（五時半）早天祈禱會

個人傳道　實業家　木岡甲子男氏

（自九時四十五分 至十一時半）國家と基督教　東京靈南坂教會牧師　小崎弘道氏

○同　午後

（二時）遠足

（自七時 至八時）女子青年會活動の範圍　女子青年會各係員

○二十六日（日）午前

（自八時 至九時）各組會の祈禱

（十時）日曜禮拜說教

○同　午後

（自二　時）如何に傳道すべきか（指導者のため）外　村　義　郎氏
（自六時半）諸女學校にての試錬　女子青年會會員數名

○二十七日（月）午前
（五　時　半）早天祈禱會
（自十　時　至十一時）國家を救ふの道　實業家　森村　市左衛門氏
○同　午後
（自七　時　至八　時）永生とは何ぞや　東京富士見町教會牧師　植　村　正　久氏

○二十八日（火）午前
（自十　時　至十一時）　東北學院教授　笹　尾　粂　太　郎氏
○同　午後
（自六時十五分　至同四十五分）夕　陽　會
（七　時）演　題　未　定　東京帝國大學教授　新　渡　戸　稻　造氏
送　別　會

（尚本會に關する詳細は東京市牛込區田町三ノ十二日本基督敎女子青年會本部へ照會されたし）

●東京基督敎女子青年會　●●●●●第八回總會　本會第一寄宿舍に於て六月六日午後二時より開會す。先づ過去一年間の報告をなし役員改選を行ひミス、ハリスの獨唱ありて後米國ロスアンヂレス人道會幹事楠本六一氏の演說あり（別項掲載）茶話會を催したり會する者九十餘名頗る盛會なりき、新に左の諸氏を委員に選擧す。

隈元夫人、ミセス、マラー、ミス、ボーフラワー、ミス、ドートン

役員及び委員長左の如し。

會長　新渡戸まり子夫人　副會長　今西糸子夫人
書記　隈本夫人　ミセス、デヴイス
會計　小畑續枝夫人
寄宿舍委員長　今西糸子夫人
資金募集委員長　小室みえ子夫人
看護婦委員長　周防蝶子
旅行者の友委員長　ミセス、ピカスデス
幼稚園事業委員長　新渡戸まり子夫人

▲旅行者の友委員會　●●●●●●　五月二十九日ミセス、ピカスデス方に開く。

▲幼稚園委員會　●●●●●　六月十一日女子青年會本部に於て開く、同事業は十一名の園兒を得て六月一日開始せしが定員四十名に對し既に三十五名に及び猶續々申込あり、同所附屬日曜學校は三十名の生徒あり、附

添の母姉の爲に聖書の組を設くる筈なり。

▲寄宿舍委員會　六月十七日女子青年會に於て開く

▲其他　現在聖書の組十二英語の組一あり本月中に於て會員二名及び看護婦二名受洗す、本會の爲賣物を製作せんと兩寄宿舍生十二名は集りて裁縫をなしつゝあり。

▲新入會員　左の如し。

ミセス、フランクリン、ブラウン　　ミセス、フランク、マラー

星野　愛子　　井深　花子

●幼稚園報告　神の御惠に依り六月一日開園しましたが、萬事好都合で毎日子供等は樂しく遊んで居ります今日も三十五名參りました三人ばかり泣きましたが授業の始りました時には皆ニコ〳〵致して歌つたり遊戯をしたりマーチやたゝみ紙等を致しまじて何れも樂しそうに遊んで二時に歸りました慾目かも知れませんが皆有望なよい子供で御座います樂しみでございます、毎日入園志望者が澤山に有まして斷るのに困つて居ります位です、遊戯室が廣ければいくらでも入園させられますが只今の處四十五名だけに止めて置く積りです今日も幾人か斷りましたが二人の兒は斷はられても歸らぬ處か泣き出して困りましたから今日一日だけ遊ばしてやりました先達今西樣が參觀に入らして下さいました其折寄附するやうにと行李がないから買つて下されとて貳圓御寄附下さいました殘金で子供の喜ぶ物を買つて下されとの御言葉通り樂隊の道具砂箱の附屬電車汽車等を求めました明日は土曜日ですからこまかく認めて子供から御禮狀を今西樣にさしあげる積りで居ります それから先日門倉先生がゐらして下さいましたどうか先生方御暇の時には此樂しい幼稚園を見に入らして下さいまし庭や畑に蒔きました種はぞく〳〵芽を出しはじめました子供は活氣に充ちてまう幼稚園全體が生命に充ち充ちて居ります、そして實に愉快でございます、始からこんなに盛に成るとは思ひませんでした。

日曜日は午前八時より日曜學校を開きます、大人

も中學、小學校の小供も參り去る日曜日は九十名で實に困りました、大人の組は菅野夫人に私は小供を教て居りますが是より追々手傳て下さる方が入用になります、幼稚園でもどん／＼申込がありまして廣ければいくらでも志願がありますから擴張が出來ますと存ます。

昨夜母の會を初て開きましたらば子供も男子も參り家族會で百五十名位でしたらふ、一ぱいで身動きも出來ませず庭に立つてゐたものも多い樣でした、御噺や蓄音器で大喜び其上に御菓子を出したら尚更に滿足して厚く禮を申てかへりました。（女子青年會所屬幼稚園主任大槻愛）

●旅行者の友報告

旅行者の友係員の報告の一節を左に

一旅行者と語りつゝある待合室へ査君一少女を伴ひ來る理由を聞けば一歲にして母を失ひ四歲の時より父は後妻を迎へしも八歲の時父は病を得て世を去れり十三の今日を母の手に人となりしも父の死後惡漢なる義父を迎へし爲家計不如意となり母は何れへか去り彼女は農家へ奉公に行けりと然るに田植の仕事を終り晝飯後汚れ物を洗濯して貰はんと風呂敷に包み山路を越へて親戚の歸り急ぐ途中突然惡漢に捕へられ氷の如き刄にて强迫せられ恐ろしさに言語も發し得ず惡漢が隨ひ來よと言葉のまゝに伊勢崎停車場より乘車上野驛にて群集に相まじり改札口を出査君に訴へしなりと餘りに小說らしく信僞は分からねど兎も角もと一旅行者に別れ直にホームへ伴ひ行きやがて又次の列車にて來りし娘あり行手を問へば面をふくらし何ですあんたも變な人ですね、そんなにふくれて私はあなたの樣に一人で地方から來る人を保護してあげるですと云へば大きに御世話と云はぬばかり「フ、ンさうでわしは一人で行きますサア道もよく知つてゐるから」

奉公の目的で上京するものを汽車中にて誘拐する惡漢の多きこそ悲しけれ。十六歲なる少女此手に陷り本鄉のある天ぷら屋に酌婦同樣やられしも目的に反すを以て家出せしものを交番より紹介し來り其仕末をなせり、又是と類似して愉快なりしことは惡漢自身が態々訪問なし來り己が手に持餘したる事件の相談に來りし一事なり、彼は車中にて三人の工女の無斷上京を見付て甘言を以て欺むきしも警察探偵の嚴しきため恐怖の念を生じて善後策に付相談に來りたり、當方にては此三人を彼の手より救出し引取りて其々に安全なる道を撰びやりたり。

恩を仇にて返すと云はぬ迄も何の入らざる世話との仕向は常にうくる事あれども又折には厚き禮を述ぶるもあり、種々荷物の世話などなせば我が徽章を胸にみて嬉ぶのもあり、人間の性質を學ぶには此事業程生きたる學問はなかるべし。

●ウヰルミナ女學校青年會

當校女子青年會は四月九日に事務會を開き役員改選其の他の事を

議決せり。此學年より青年會は毎週水曜日の朝開く事に定められたり。而して大いに精神的修養に努め時々徳望ある名士を聘して講話を願ふ。加へて祈禱會質問等以上は今後講堂に於て開く事となり尚各教室に於ては聖書中の婦人てふ題のもとに今學期開く事となりたり。すでに四月十二日にハガル五月六日モーゼの母同二十日デボラとヤエルにつき開會せしが各級何れも盛んになりき。去る十一日には城南教會教師藤本壽作氏を招聘して講話を承りたり。氏は先年旅行せられしパレステレ地方の地理風俗習慣等くわしく話され殊に聞く私共は其の昔基督が傳道あそばされしと云ふその時分を眼前に見る心地して誠に有益なる集りなりき。新役員氏名左の如し。

會長 伊藤祥子　記錄書記 細谷文子
會計 松村久江　通信書記 瀬戸津矢
粟山春野

此他傳道、祈禱、音樂、慈善、訪問、親睦等の委員ありて熱心に其働きに從事せらる。（瀬戸津矢報）

●青山女學院第一部女子青年會

當青年會にては此度、役員の改選を行ひ其結果左の通りにて及ばずながら御榮の爲に力を盡して居ります。

部長、及川なほ子　通信書記、西村ユキ　會計、宮田とよ　記錄書記、後藤きん　社交部委員長、橋本幸子　婦風部委員長、浦田みよ　傳道部委員長、小松かね　宗教部委員長、三ツ木いと　勸誘部委員長、石黒じやう。

●神戸女學院青年會

新學期となり候てより新たに三十名以上の會員を加へられ普通部四年生の如きは二名を除きてすべて青年會員と云ふ有様にて一同至極幸福に活動いたし居り候まゝ御喜び下され度候此の頃は夏期の修養會に代員を送る費用を得んとて多數の姉妹方は毎金曜日の午後放課後裁縫室に集まりて美しき手細工ものゝ色々をつくり講堂の陳列箱に飾りて可成の成績を擧げ居り候。實は本院の創立紀念に青年會にて慈善市を催すつもりに候ひしも御諒闇中にて御遠慮申上居り候處。去六日土曜日學校にてテニスとパスケットボールの競技會有之候當日は天氣如何にと心配致し候ひしも幸ひ上天氣なりしかば一同大喜びにて皆々出店の準備やら椅子を

芝生に運ぶなど大騷動を致し候九時半迄にはアイスクリーム屋、蜜柑屋、苺屋、お汁粉屋、うどん屋など立派に出來上り申候。バスケットやテニスに咽喉のかわける人達が我れ先にと爭つて參りうどん屋など午後一時過には賣切と申す景氣にて純益金廿七圓餘を得て感謝に不堪候。斯くして來る夏期修養會には七八名の代員を送る事となり目下彼是と人選中に御座候。何卒申込書は例年よりも澤山に御送附下され度願申上げ候。皆々様の御壯健を祈り御事業の上に神様の御恵の豊ならん事を祈り上げ候。

●基督教青年會創立紀念會　基督教青年會は萬國青年會は第七十年日本青年會は三十五年に相當するといふので六月六日午後二時より東京基督教青年會館に於て記念會を開き、平澤均治氏司會し、江原素六氏の開會の辭、小松武治氏（基督教青年會歷史）小崎弘道氏（創立當時の回顧）植村正久氏（基督教青年會に對する感想）スウイフト氏（東京青年會館建設當時の回顧）元田作之進氏（萬國青年會同盟に對する日本青年會の使命）田川大吉郎氏（市青年會に對する希望）の演説あり、終に來賓ガスリー米國大使、大隈總理大臣、坂谷東京市長等の祝辭あり非常なる盛會を以て閉會したり。

●日本女學生奬學金　米國有志婦人が日本女學生の高等教育のために寄附されし金壹萬弗の利子によりて米國費府又は其附近の大學に留學せしめんとするものにて既に明治二十五年以來五名の學生を修業せしめたり。今回その第六回留學生を選ぶよしにて其候補心得書を發表したり。事務所は東京市麴町區五番町十六番地女子英學塾內奬學金事務所にして志望者は來九月二十日迄に願書を差出すべしとなり、委細は事務所に照合さるれば相互便利なるべし。

消息

○廣岡淺子、三谷民子　本會中央委員なる兩姉は六月上旬關門地方共同傳道應援の爲出張す。

○新渡戸マリ子　東京女子青年會々長なる夫人は新渡戸博士御同伴にて六月上旬中國地方を視察す。

○河井道子　六月十日麻布東洋英和女學校に於て十二日女子學院婦人會に於て十三日鎌倉メソヂスト教會母の會に於て講話す。

○岩本昌子　五月三十日東京靈南坂教會に於て受洗さる同姉は女子英學塾に在學中にして東京女子青年會の會員たり。

○千葉一枝子　東京女子青年會の會員たる同姉は今回岩本氏と結婚され六月二十一日同姉は御母公並に令妹可奈子と共に九段坂美普教會にて受洗。

○和田花子　朝鮮海州なる同姉は五月男子御出産母子共に肥立よろしき由。

○高橋みづほ子　札幌北星女學校教師並に同地の女子青年會の會長なる同姉は今夏留學の爲渡米の由。

○ハーツホン孃　女子英學塾教授なる同孃は來七月上旬休養の爲歸米し本年末迄に再び東京に歸らるゝ豫定なり。

○ミード夫人　六月六日本部を訪問されし同夫人は米國女子青年會本部の役員にして萬國女子青年會の視察の途次東京に立ち寄り幹事一同を奬勵されたり。

○ルーミス夫人　横濱女子青年會に最初より同情を寄せらるゝ同夫人は六月八日本部訪問。

○ヒトネン孃　信州飯田の宣教師にして六月上旬本部訪問。同姉の本國フインランドは青年會の盛んなる所なり。

○木澤かつ子嚴父　木澤病院長たる同姉の嚴父は今春以來御病氣の所五月三十日永眠さる。

○森田八十郎氏　同氏は傳道義會醫院々長として永年貧民間に施療施藥をされ居たりしが六月二日夜腦溢血にて永眠さる外村義郎氏は同氏の御令弟なり。

○櫻内曉香子　本誌五月號に上海たよりを寄贈されし同夫人は五月上旬該地にて御出産後間もなく永眠されたり御良人篤彌氏の通信の一部に「私は明治三十九年東京高商卒業只今上海の横濱正金銀行支店に奉職して居るものです。妻は神戸村松吉太郎氏の義妹に當り神戸女學院出身で、一昨年の冬結婚いたし。その後滿一ヶ年共に〱教會青年會婦人會等の爲に不及乍ら盡力いたしました。去四月二十七日男子を安産しまして非常に喜んで居りました處が二十九日夜突然發病いたし五月三日朝十一時遂に永き眠に就きました。其臨終が誠に美はしかつたので神を知らぬ朋友を感ぜしめた事は少し許りではありませんでした」

○西野貞子　大阪ウヰルミナ女學校教師にして本會の熱き同情者にて夏期修養會にも出席されし同氏は今回米國に遊學の由。

○楠本六一氏　米國加州人道會の幹事なる同氏は去る東京　子青年會總會にて該地の事業の一班を談られたり不日又横濱女子青年會にて同氏の報告を乞ひ同會の新機軸を開かんとす。

夏期修養會所感と 休暇中に考られた事 および爲されたこと

本誌は來二十二日より開かるゝ第九回夏期修養會へ御出席の方々より「夏期修養會所感」を、また誰方を問はず、暑中休暇にて或は歸郷され或は旅行され、此の休暇中に爲された事、爲さるゝ事、考へられた事などを簡明に認めて御寄稿を願つて本誌次號紙上を飾りたいと存じます。續々御投稿を待つて居ります。宛所は本部編輯係として下さい。

讀者便り

○私も遠から祈て居ます

臺灣臺中　高水はつ

今子供をねかしお湯を戴き美しい月を眺め何うしても東京を思はずに居られません此の誠に美しい月は何時も同じ様に東京も尚又地球の半分を變りなく照して居るのですれ、本當に美しい光です是を見るにつけ私共もたとへ餘り强く御座いませんでもよい人が喜ぶ心の光を放ちたう存じます、今宵は金曜日ですから富士見町教會では皆々様が善い祈り會を遊ばして居られる事と存じます私も一人で遠くから祈つて居ります、植村先生始め多くの教會員の爲又日曜學校の爲神の祝福が豐かに加はる様願つて居ります、最早夏期修養會の開かれますのも間もなくなりました故に先生方の御心配は一方ならぬ事と存じ毎日特別の御力が加はりよい御準備が餘りお骨が折れないで早く出來ます様心から祈り上げて居ります、今は十一時過ぎですが餘り美しい月夜なので未だ早い様に思はれます虫がよく啼き何となく秋の様に覺えますが中々御暑う御座います風が少しも無い爲でせう、之から月夜の庭景色を眺めて參りまして御話でも致しませう、此純日本式の庭に月がさしますと實に見事です丁度小さい公園に參りました様です相變らず水の流れの音がいひ知れぬ慰めと勇氣を與へて呉れます築山に登り四方を眺めますと最早大方實りかけた稻が日中激しい光に照らされて力なく弱つて居りましたのでせうが最う夜露とやはらかい月光とで再び勢を得しつかりと重さうな穗をさゝへて眞の謙遜な態度をとつて居ります美しい花が澤山に咲き亂れて居ります。私は力も智惠もなくして重き此責任を如何にせんと度々心配して苦痛を感じますが神に祈りて力を與へられ導びかれて居ります實に神を知り知られる事は第一の幸福で御座います、當地の暑氣は室内九十四度位外は百三四十度で御座います、其日中に本島人は働いて居ります。

○微塵になるまで盡したい

札幌高等女學校　橫澤つぎ子

私は此頃色々の出來事に遭遇して益々傳道の必要を感じ自分の一生を何うにかして神の爲微塵に成る迄つくしたいと思ひ何時も其時には友人達の如き智德の力なき事を悲しみます若し頭がもう少々にても明晰であつたらと思ひますが悲觀してはゐられません神パウロに「我惠汝に足れり」と申されし如く勿論私も滿足する處か喜んで此まゝにても何か用を御命じ下さいませう其事を充分忠實にするつもりでゐます自分の神を知りし事をかへすがへすも有難く思ひます、私共の神は只に偉大なのみならずして偉大の上に愛とか義とか聖とか申す性質を備へて居られます而して又偉大として敬するのみならず父の如き溫情があります又神は完全であり私共は穴だらけの者であつてとてもぢかに御手を取る事は出來ぬ其れをキリストの御救ひに依りて親しく成る事が出來たのだとつくづく身の幸を思はで居られません然し何故皆が斯く迄キリスト教を嫌ふか一向に意味が解りません。

數年も調べてから嫌ふのならばまだよいかと思ひます、パウロの云ひし如く基督教はほんたうに「何も持たざるに似て凡てを持てり」と云ふ程に私共を富ましめます、然し私は信者とは名のみにして實なき身何うかしてもつともつと高く成り實にキリストが私共に滿ちあふれて其力と光とが周圍に流れ出て物云はずして神の　を表はし得る様になり度と思ひます此與へられし手、口、耳、頭、凡て神の榮の爲に使ひ度

と思ひます、兎も角此度の色々の事にて益々傳道心の起されしと同時に自分は一層の力を以て基督に近く引きあげれば駄目と思ひました。

七月の事考へては合監室にて踊り出し度くなります、實際に又踊りました其れは「何處へ行く」にて見たチロの眞似をしたのです、もう夏の事を考へては居ても立つても居られぬのです。學校の櫻實が日に〳〵大きく成つて行きます、毎日其れを見ては彼れが赤くなつたら歸られると思ひます、只殘念な事は自分の思ひし樣に當地の爲に何もなす事なくして當地を去る事です、當地からは修養會に三人ばかり出席さるゝ樣です、代表者や何か入れますと五人でせうせめては五人も出て下さるのを實に嬉しく思ひます、此準備の爲に日夜御働き下さる先生方の上に祈ります、神が其熱心さを嘉みし給ひて修養會を成功なさしめ給はん事を祈ります、當地今は袷に袷羽織にて尚寒いのですさうすると單衣を着て尚暑い夏七月八月は遠いのかしらと心細く成ります今新渡戸先生の「折にふれて」を讀みつゝあります。

○私もよい事と思つて實行致ました

東京女子青年會寄宿舍　石原しん子

今度御着手になりました女子青年會の幼稚園の幼ない子供のために私は幾分でも御助けいたしたいと存じて居りますそして此處に少々寄附を致度う御座います。私はミス、ワットネーと御別れいたします時に約束致しました事が御座いますそれは私の間食の爲胃を悪るくいたしましたそこで間食し樣と思つた時に其れに打ち勝ちいくらでも金を貯金して私が又日本にかへりました時はいくらためたか御覽なさいと先生が申されましたから私もよい事と思つて實行致しました。今其の中より此處に寄附いたす事の出來る嬉しいことになりました少ないのですが何かの爲御使ひ下さいませ。又出來る限り御助け致し度いと存じて居ります。

○口で以て人を生し又人を殺す

横濱捜眞女學校　井戸本小夏

私はこの二週間最もよき事を伺ひましてほんとによろこんで居ります。私がいつも字が書けませんので習字をして居りますがどうしても皆樣の樣にはよく書けませんので困つて居りましたら修身の時に先生より何事も人と較べずに自分で顧みて致す樣に人は生れつきの智慧を以つて居りますから何事も人と較べずにと申されました又講堂に於て口で以て人を生かし又人を殺すと申されましたそして色々口の訓を教へられました。又國語の時にも口の訓に付て教へられました私はほんとにうれしくてたまりませんこのよき話を聞く度に少しでも實行したいと思つて居ります又口も上手にきける樣にしなければ損だと思つて居りますよき心を持ちよき事を毎日々々もとめていつたならば教はらなくともよき言葉が出て來ると申されました。私は神の御教をよく教はり又聞きました事を實行したいと思つて居ります。勉強が先へ進む程大變樂しみで御座います。毎月青年會の雜誌を皆樣にも御貸し致しますが兄にもと思つていつも國へ送りますのです。

○女子青年會寄宿舍規則書一通

京都　尾本憲子

此頃京都に遊學致す女學生の漸々増加致しこれに適當なる寄宿舍を設立致すの急務も日に迫り候樣に存じ候此處に經驗家の御指導を得て完全に近き寄宿舍を設立致し度き母の希望に御座候就ては東京青年會

經營にかゝる寄宿舍の如きもの當地にも得る事かなひなばと存ぜられ候。就ては九月より着手の豫定に相運び度き旨に御座候間誠に御手數恐れ入り候へども女子青年會寄宿舍規則書一通何卒至急御送附願ひ上げ度伏して御依頼申上げ候。いかに內容は小なりともこゝに女子青年會なるものゝ支部を設置し得べく候はゞ神の御爲必ず世の鹽となり光となりて神の御榮のあらはるゝ事もやと日夜いのり居り候。加藤高子様御歸朝の日には共にはかりて神の御爲と存じ候ひしが餘りに待ち遠く存じそれまでに何か開始致し度存じ候。

○益光輝あるものと致度堅く期し申候

名古屋　八木順子

初夏の候係員御一同様にはます〳〵御健かに渡らせられ賀し上げ候此度私の受洗いたし候につきてはわざ〳〵御よろこび下されなほ紀念として聖書御送附にあづかり御厚情ありがたく厚く御禮申上げまゐらせ候永久に大切にいたしおき申すべく候なほ益々光輝あるものといたし度及ばずながら堅く期し申候然しながらそれにつけても我身をかへりみては御恥かしさひとしほに御座候。又青年會の如きうるはしく清き御まどゐの一員と相成り候事はこの身はけがれたりと雖もいかに光榮なる事に候はんとうれしさやる方これなく候何卒一端に御加入いたゞき度願ひ上げまゐらせ候今後は益々努力し何事も全能なる神の御心のまに〳〵信者の生涯を潔く甲斐あるものと致し度きものと切に祈り切につとむるものに御座候。

○十字架に死し榮のために活きるやう

朝鮮仁川　茂木春子

先頃傳道のため諸先生方御來鮮の節はようこそ御光來下され候其の際日頃淋しき私共の此家へ植村河井兩先生等の御一泊下され候事は實に御嬉しく候ひしに唯御一泊のみにて御別れ申上し事誠に御名殘惜しく存じ候ひき其後私の如き者をも御覺え下されて有益なる女子青年界御惠贈下され嬉しく拜見いたし教會の姉妹方にも御分け致し候處一同有難がり居り候心より御禮申上げまゐらせ候當教會の不振は私共兩人の不信仰を代表いたし居様の心地いたし實に神と人との前に罪深く恥しき事に有之候何卒幾分にても此地の爲に御役に立ち度と思ひ且祈りつゝも常に雜事にのみ追はれ道の爲につくす事の實に薄きをかこち居り申候何卒この罪多き兩人が眞に十字架に死し榮えの爲に活きる様御祈りの端に御加入下され度願ひ上げ參らせ候。御愛しみを頂きし小き娘は此頃の御うらゝかさに誘はれて戶外にのみ出で申候御見受けの如きの勞働者のみの集ひに候へば近所によき友一人も御座なき爲是までは家人のみ附き添ひて遊ばせ居候處少々偏屈に相成り候故此頃少し放任して置き候處矢張り結果に惡しく候さりとて手少なの家にて日一日附添ふ事も難く實に如何せんと心配いたし居候毎日午後四時よりは私と一所に庭の草花に水をやり朝は父さまとイチゴを畑に取りに參る事をこよなく喜び居り申候。

○早速よき働人を與へられ何よりでした

足利　內崎芳世

本日は總會にて色々過去の御惠と長足の發展に御臨席の皆々様の御心中神のくしき御みわさを讚美遊ばす事と自分も靜かに祈りかつ感謝いたします先月の雜誌にて幼稚園御設立の事拜見いたし誠に嬉しく力を得ました早速よき働き人を與へられ何よりで御座いました日に〳〵

各方面に神の御教へが普及せらるゝは喜しいでは御座いませんか。昨夜福音新報により森田様の御逝去の報告に驚きました御遺族の御なげきや如何に。又漸く義會もかく迄有用の位置に進みし今日この先生の御永眠は此後の爲一層惜しく御座います又心配にも相成りますが此様は又きつと外村先生によき方を御與へ下さる事と信じて祈りませう。塚越さんの御父様も去る三十一日に胃癌で御永眠になりました又私の妹の嫁した先の父が三十日に心臓麻痺にて三十分間位の内に落命いたしました。人の生命けいかにもはかない事を痛切に感じますと共に基督者の生活がいよ／＼有難くなりました。

○もつと嬉しいのは小包の來た時

福山　高折かなを

東京も大分御暑くなつて行く頃福山では十日位は早く夏が參ります御あつらは御座いますがいつも相變らずおもしろい様なつらい様な日を送つて居ります。一番うれしい事は東京から音信があつた時もつとうれしいのは小包が來たときで御座います。二十七日に岡山に居らるゝ英國のミスヴオールスと云ふ方をミセスビカステスに御紹介して頂きまして、岡山へ是非遊びに來る様にとの、御手紙を三度も下さいましたので、參りまして半日おもしろく遊んで、九時頃かへつて參りました、親切にいろ／＼神様の御話しなどして下さいました。歸りにはアメリカの繪を下さつて、室にかけて置く様にと御親切に言つて下さいました。始めてお目にかゝつても其の様な氣は一つもしませんでした。同じ一つ神に事へる者は何處へ行つても兄弟姉妹である事を深く感じました。明日から日曜學校の十五六歳位の女子ばかりを教へる事になりました、一生懸命にする事はして早く東京に歸り度う御座います。伊藤くわ子様は遠方へ御出かけとの事で御座いますれ。

○今は修養會に參るとのみ樂みに致居候

尾ノ道　阪本花代

今日「女子青年界」をいたゞき一しほ皆様御懐う思ひ出で候當夏こそは修養會にも參る積りにて二十日湯川様と御一所に上京致す事に定め居り候久し振りに皆様に御目にかゝり色々有益な宗教上の御話を伺ひこの魂を益々元氣にさせ度しと樂しみ居り候この學期は教授時間もふえ忙しく候へども夏の事を思へば嬉しくてたまらず日々の務を無事に果し早くこの日の來れかしとのみ祈り居候本月の女子青年界に「ひとりぼつち」のなかりしため生徒も私も大に失望いたし候早くあの續きを伺ひ度く候日々の務と自分の事にのみ齷齪と過しあまり我がまゝに過ぎて御はづかしく教會の禮拜にも何時も出で日曜學校のためにも働き居りし時代なつかしくて／＼たまらずかゝる日の來れかしと祈り居り候。上海の女子青年界の愛讀者となりくれし友人先日の雜誌上に「上海便り」など書きし友人は可愛い赤ちやんを殘して永眠いたし候本月の新女界にて臨終の様子よみ涙ほろ／＼こぼれ候かゝる友と二年間も同窓たりしを光榮と思ひ候。何卒立派なる信仰をいつも持ちて進み度候。

扨て思ひがけもなく此度新渡戸博士に御目にかゝり候而して慈悲につきてと當校にて當校生徒及高等小學校生徒に對して弱き者は助けよ強きものはくじけよとの意味にて心の底にしみ込む様なる御話を伺ひ今日も晝食後にこの御話を互に語り私のクラスは先生の御話を實行し小範圍ながら理想を實現し度しと語らひ申し候日々一同心を合せて務むる覺悟に候昨日一寸ミスハッホンミセス新渡戸に御目にかゝり候時

間短く誠に殘り惜しく候一昨夜より昨日までの事は私當地に參つてより初めての樂しき嬉しき事にて候今は修養會に參る事をのみ樂しみにいたし居候、田舍に引き籠る居る友人二人をも誘ひ參り度く候まゝ會則御送り下さるゝ節は恐れ入り候へども二部御計に御送り下され度願ひ上げ候同じ神を愛する人と一週間なり十日なり共に住みその上有益なる話をうけたまはるは何と云ふ幸かと淋しき二人の友も出席致し得る樣切に祈り居り候何卒皆樣の御祈のはしにも御加へ下され度御願ひ申上げ候。

○例年の通り當女學院よりも數名出席

青山女學院　及川　直子

夏期修養會の事只今より樂しみ居り候殊に私は二三年前宮城女學校に在學中穴守鵠沼等の修養會に出席致し多大の益を受けしにて再び此幸なる機を與へられ皆樣の御人格に接し奉る事こよなき悅と存じ候例年の通り當女學院よりも數名出席致すべく候間何卒よろしく御願ひ申上奉り候。

○御活動振り拜見いたし誠に嬉敷存候

府下川崎　肥田　壽喜子

去る十三日には河井先生御來鎌下され非常に有益なる御演說なし下され候ひし由只今淸水樣より御通知いたゞき申候鎌倉の皆々樣の御喜と御滿足の一方ならざりし御樣子伺ひ陰ながら嬉しく存じ居候實は私事當日は是非共伺ひ度樂しみ居候ところ十三日早朝俄事急に不快を感じ就床いたし候まゝ遺憾ながら參會いたし得ざりし事に候「女子青年界」一六月御送附下され御禮申上候青年會の御活動振り拜見いたし誠によろこばしく存候青年會の上に神恩の豐かならん事を祈り居候雜誌を通じ又諸姉妹方の御人格を偲びて御感化を蒙り度希望いたし居候。

○自分の借りた金でも返濟したやうな氣が致し

仙臺　原田　ことぢ

本部皆々樣の御活動の邪何時も雜誌にて承り感謝いたし居候雜誌は誠に有益なる事のみ多く何時も樂しみに致し居候併し御承知の通り暇なく候まゝ日曜日に日曜學校と敎會の說敎との間の時に讀み居候此度の雜誌程嬉しく拜見いたしたる事なく其れは中央委員會の時の報告に雜誌の經費が昨年九月より不足せぬ樣になりし事に御座候僅三ケ月の間にレーガン先生の御手傳をいたして雜誌の不足を承知居り候まゝ此度の御報告をよみて自分の借りし金でも返濟いたした樣な氣がいたし嬉敷て神樣に感謝いたしました。

○會友申込　（本部報告）

（普通）
三吉　春子　中野　たみ　八木　順子　北川　絹子
大川　喜代　三宅　あい　大野　秀子　高水　はつ

○會友會費領收　（本部報告）

金壹圓　三吉　春子　八木　順子　北川　絹子　大野　秀子
岩崎　高子　村上　一子　三宅　あい　河井　道子
高水　はつ

金貳圓　ミセス、メードレー　ミス、アームストロング　ミセス、オルチン　ミス、ウヰルカックス・ミス、アレン　ミス、バー

カー　ミス、ベーツ　ミセス、ラング　ミス、コザト　ミス
カンベル　ミス、クローソン　ミス、デフオレスト　ミス、
ルーテル　ミセス、ベネト　ミス、キラム　ミス、トロット　ミ
ス、セパード　ミセス、オービ　ミセス、エルウヰン　ミ
セス、ツルーマン　ミス、モルガン　ミセス、ハインド　ミ
ス、ゲルハード　ミス、カイパー　ミス、トレセー

金五圓　ミセス、ロビンソン　ミセス、ダンニング　ミセス、ハミル
トン　ミセス、フライヤー

金參圓　ミス、ターヴオーゲル

金壹圓　ミセス、ゴルボルド

金壹圓○壹錢　原田ことぢ

○雜誌「女子青年界」代金領收

金七拾錢

藤田久枝（自大正三年二月至同四年一月）　服部康子（自大正三年六月至同四年五月）

安村すゑ（自大正三年六月至同四年五月）　横尾しづ（自大正三年六月至同四年五月）

齋藤秀子（自大正三年六月至同四年五月）　河合柳子（自大正三年五月至同四年四月）

堀越かつ（自大正三年一月至同年十二月）　南雲すみ（自大正三年四月至同四年三月）

伊藤貞子（自大正三年四月至同四年三月）　富尾光子（自大正三年四月至同四年三月）

岩倉米子（自大正三年三月至同四年二月）　安部かい（自大正三年六月至同四年五月）

松岡つれ（自大正三年三月至同四年二月）

ミスゲルハード（自大正二年十月至大正三年九月）

金拾貳圓參拾八錢（大正二年一月より五月迄十一冊分及同六月より同三年四月迄十五冊分）

宮城女學校青年會

金壹圓五拾錢（自大正二年六月至同四年六月代及本部へ寄附）　清水とみ子

金壹圓（自大正三年三月至同四年六月）　田川芳野子

金四拾貳錢（自大正二年十二月至同三年五月）　丸山ふく子

金四拾九錢（自大正三年六月至同年十二月）　廣江つる子

金五拾錢（自大正三年五月至同年十一月）　清水つね子

金拾四錢（大正三年五月、六月分）　松宮のぶ子

金壹圓四拾錢（自大正三年五月至同四年四月二部代）　菊地幸代子

金參拾五錢（自大正三年二月至同年六月）　三輪祥子

金九錢（六月分一冊代）　坂本花代

金四拾貳錢（自大正三年六月至同年十一月）　肥田壽喜子

會員及讀者各位へ御願

我が『女子青年界』は會員及讀者各位の御高庇により漸次發達いたし居る事は委員及關係者一同の感謝して措かない所であります。尚此際是非青年女子の間に充分行渡りますやう致したいと存じ努力して居りますから、御知合の方々へも御紹介下さるやう、會員及讀者各位の一層の御助けを得て、假令一二部宛にても御勸誘を呉々も御願申上ます。

六月

日本基督教女子青年會本部

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を贊助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一斑

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の養に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有り將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　每年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子
副委員長　岡見惠子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員
津田梅子（東京）
エ、ビ、ウエスト（東京）
鈴木歌子（東京）
小此木松子（東京）
長谷川喜多子（東京）
サラ、エリス（東京）
イ、クレメント（東京）
山田千代子（橫濱）
廣岡淺子（大阪）
ケー、トリストラム（大阪）
エム、エフ、デントン（京都）
佐伯小糸（京都）
松田道子（京都）
エス、ソール（神戸）
上代淑子（岡山）

幹事

總幹事（本部）　河井道子
同（同）　エ、シー、マグドナルド
書記（同）　アール、レーガン
總幹事（東京）　エム、エル、マシウ
幹事（同）　シー、アール、ワトネ
特志幹事（同）　エム、ペーチ
幹事（橫濱）　久野ひさ子
事務員（本部）　河口正子
事務員（東京）　大呑久子
旅行者の友係　林ふさ
　松崎滿喜
幼稚園主任保姆　大槻愛子
幼稚園取締　菅野田鶴
寄宿舍監（第一）　門倉ぶじ
寄宿舍監（第二）　大西絹子
宿泊所取締　ミス、ダルトン

東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會本部

支部及寄宿舍其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウキルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校內
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	橫濱市山手町一七八
共立女學校青年會	橫濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
青山女子手藝學校青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戶女學院青年會	神戶市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市內丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリッン方
橫濱女子青年會	橫濱市本町五一
第一寄宿舍	東京市牛込區納戶町四五
第二寄宿舍	東京市小石川區水道町（安藤坂）
外國婦人宿泊所	東京市赤坂區檜町（乃木坂）
幼稚園	東京市小石川區金富町五二
旅行者の友事務所	東京市本鄉湯島

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasure
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Elisa Kuno, General, Yokohama

本誌定價	
一部（郵共） 金七錢	一ケ年分 金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿四錢

廣告料	
一頁 金六圓	半頁 金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

大正三年六月廿八日印刷納本
大正三年七月一日發行

發行所　東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　鈴木吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

女子青年界第拾壹卷第七號

大正三年六月廿八日印刷納本　大正三年七月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可